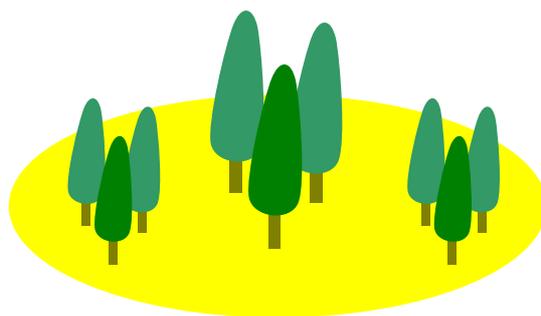




平成 20 年度 文部科学省委託事業

「総合的な放課後対策推進のための調査研究」
(海・山の放課後子ども教室での地域産業資源活用
モデルプログラムの開発)

報 告 書



平成 21 年 3 月

株式会社 開発計画研究所



【 目 次 】

序. 本調査研究の目的と実施体制	1
1. 本調査研究の目的	1
2. 本調査研究の実施体制	1
I. 古くて新しい陸奥湾の食文化を創る「むつ放課後ホタテ教室」プログラムの実施	2
1. むつ市での地域産業資源活用プログラム実施の背景	2
2. むつ市での地域産業資源活用プログラムの実施	3
3. むつ市での地域産業資源活用プログラム実施の効果・成果	36
II. 森と木の特性や魅力を知る「とくしま放課後森と木の教室」プログラムの実施	38
1. 徳島市での地域産業資源活用プログラム実施の背景	38
2. 徳島市での地域産業資源活用プログラムの実施	39
3. 徳島市での地域産業資源活用プログラム実施の効果・成果	90
III. 大都市の地域人材資源を活かす「せたがや食育」プログラムの実施	93
1. 世田谷区での地域人材資源活用プログラム実施の背景	93
2. 世田谷区での地域人材資源活用プログラムの実施	94
3. 世田谷区での地域人材資源活用プログラム実施の効果・成果	102
IV. 「地域産業資源活用による放課後子ども教室の活動内容充実」の全国普及のために	104
1. 3地域でのモデル事業実施を受けて	104
2. 他地域での「地域産業資源活用による放課後子ども教室の活動内容充実」の普及促進のために	115
<参考資料>	119

序. 本調査研究の目的と実施体制

1. 本調査研究の目的

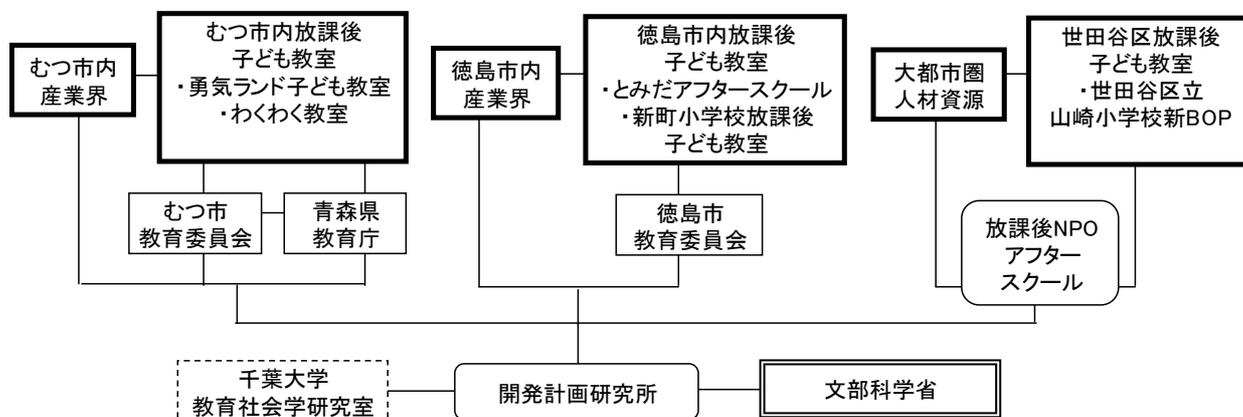
「海・山の放課後子ども教室での地域産業資源活用モデルプログラムの開発」についての本調査研究は、以下のような目的で実施した。

- ◆「地域産業資源活用による放課後子ども教室の活動内容充実」の全国普及に資するための、実施例をもとにした「進め方」指針を示す。
- ◆「海に関わる地域資源活用プログラム」のモデルケースづくりと次年度の自律的实施をめざしてむつ市でプログラムを試行する
- ◆「森と木に関わる地域資源活用プログラム」のモデルケースづくりと次年度の自律的实施をめざして徳島市でプログラムを試行する

*当初計画では上記を目的として事業を開始したが、地域産業資源活用によるプログラムを検討、提案する上で、大都市圏でのプログラム試行も必要と考え、「世田谷区での地域資源活用プログラム」の試行を追加実施した。

2. 本調査研究の実施体制

- ◆青森県むつ市と徳島市については、市教育委員会よりそれぞれ、市内2ヶ所の放課後子ども教室を紹介いただき、地域産業界の協力を得て2回ずつの教室を実施した。
- ◆むつ市では、漁業関係者を主としながら、料理の解説・指導などの面では商工会議所関係者の協力も得た。
- ◆徳島市では、山村地域で森林・林業・農山村交流・体験に取り組む住民グループと木工業界を支援・指導するデザイン企業の協力を得た。
- ◆世田谷区での実施に当たっては、放課後NPOアフタースクールのコーディネートにより、区立山崎小学校新BOPにおいて、御茶ノ水大学の食育関連サークルによる教室と料理研究者による教室を実施した。



I. 古くて新しい陸奥湾の食文化を創る「むつ放課後ホタテ教室」プログラムの実施

1. むつ市での地域産業資源活用プログラム実施の背景

(1) 地域産業資源活用可能性

- ◆地方においては、企業として子ども相手の社会貢献事業に参画できる企業はそれほど多くない(企業体力が十分でなく、企業として子どもから得られる直接的なメリットも多くないため)。
- ◆このようなことより、農協や漁協という一次産業団体の協力を得ることが最も現実的であると考え。むつ市では漁協、農協のほか商工会議所、観光業者、飲食業者等も連携して「むつ市下北の文化伝承料理『みそ貝焼き』(ホタテ貝殻使用)PR事業」に取り組んでおり、この事業と放課後子ども教室事業とを連携づけることによって、一次産業資源活用・連携による放課後子ども教室プログラム充実のモデルケースの実施が可能と考える。

(2) 放課後子ども教室の実施状況(平成20年5月現在)

①放課後子ども教室実施校

- ・6教室/15小学校(全校実施には到っていない)
- ＊19年度開設5教室

②放課後子ども教室実施頻度、回数

- ・週1～2回、年間60～70日(長期休暇中もあり)が一般的
- ＊290日以上開催の教室も1教室あり

③コーディネーターの確保状況

- ・5名/確保予定5名(確保できている)

④教室やプログラムのタイプ

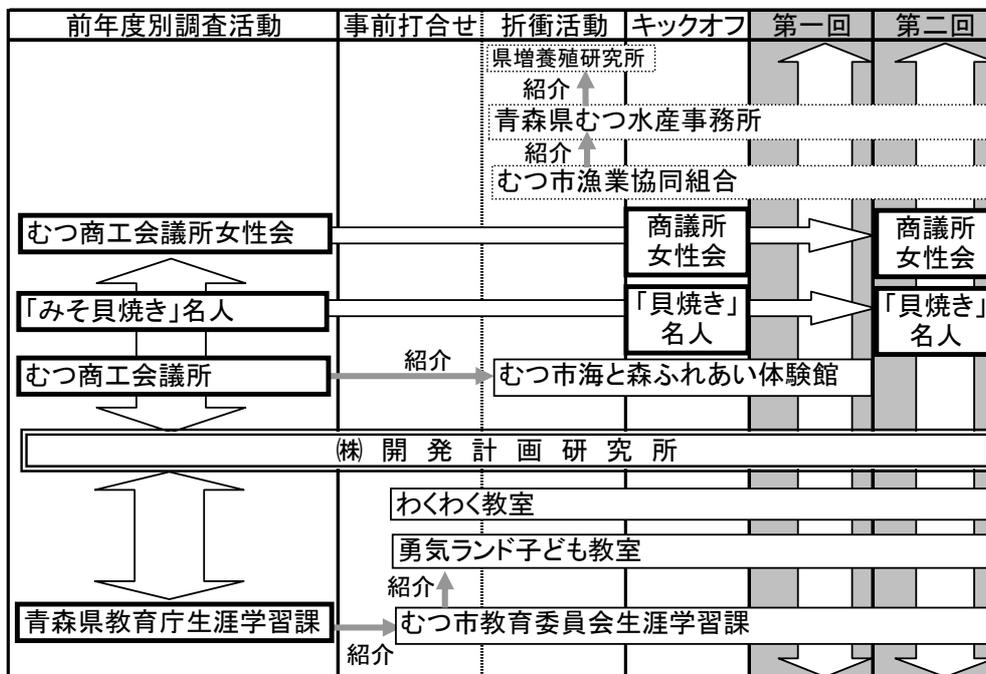
- ・昔遊び、読み聞かせ、スポーツ、農漁業体験、自然体験
- ＊大工さんによる木工教室の開催例もあり

2. むつ市での地域産業資源活用プログラムの実施

(1) 実施に到る折衝、準備

1) 協力者の開拓、実施に到るネットワーク形成

- ◆前年度の貴省委託「総合的な放課後対策調査」、資源エネルギー庁「食による広域的地域振興調査」などで当社がお世話になった方達のネットワークをもとに、「海とホタテ教室」の骨格は組み立てることができた。
- ◆プログラム実施教室については、放課後子ども教室に打診したのが5月下旬ということもあって躊躇する教室もあったが、むつ市教育委員会社会教育課の担当者から市内全6教室に趣旨説明をしていただき、2教室より受け入れの了承が得られた。
- ◆前年度の資源エネルギー庁「食による広域的地域振興調査」との関係で、ホタテ「みそ貝焼き」を題材に、むつ市の漁業や食について学び、まともは作って食べるというプログラムを組み立て、作って食べる部分については具体的な進め方も早期にイメージできた。
- ◆しかし、肝心のホタテを育て獲るといふ漁業の部分については、当社としても、教室関係者としてもこれまで直接的なつながりがなかったために、事業の趣旨を理解いただき、実際にどこまでどんな協力をいただくかという説明、折衝、内容の詰め時間に時間を要した。



- ◆漁業へのアプローチの発端は、むつ市での漁業を担うむつ市漁協であり、まずここに説明とお願いに上がった。趣旨には賛同をいただいたものの、日々の業務が大変忙しく、地元「組合員」あつての漁協であり、漁業振興・普及・PRに努めておられる県水産事務所の協力のもとであれば、むつ市漁協としてもできる範囲で協力可能とのこと、青森県むつ水産事務所の普及課長につないでいただいた。
- ◆むつ水産事務所普及課長より、ホタテを活かしたものづくりとして「ホタテ稚貝でのしおりづくり」などの提案もいただいて、プログラムを組み立て、地元漁協には無理のない範囲で、できる限りの協力（教室当日の説明、「みそ貝焼き」素材提供等）をいただきながら、県むつ水産事務所の協力で、ホタテ漁業の歴史から、現在、そしてこれを活かした料理の数々を知り、「みそ貝焼き」を実際に作ってみるという教室を実現することができた。

2) 折衝、準備の経緯

- ◆むつ市で二回の「海とホタテ教室」を実施したが、その実施に到る経緯は以下の通りである。
- ◆教室内容は当初計画通りに実施でき、子どもたちや関係者の感想も概ね好評ではあったが、地元漁協など業界関係者が予想以上に多忙で、どの時期に、どの程度、どんな内容で協力を得られるかなどの確認、調整に時間を要した。
- ◆地元漁協が県の漁業普及、振興担当の方につないでいただいた結果、プログラム内容の充実、当日の進行など大変よい形で進めることができた。
- ◆漁業関係者のほか、商工会議所との協議において陸奥湾の自然や海についての体験・学習施設の館長を紹介いただいたことで、第一回教室の会場提供、プログラム実施などスムーズで内容の濃いものとすることができた。

月日	活動	折衝先、参加者等
05.22	むつ市事業受入依頼	むつ市教育委員会生涯学習課
08.26	むつ市事前打合せ	むつ市教育委員会、2教室コーディネーター
27	むつ市関係者折衝	むつ市漁協、青森県むつ水産事務所
	むつ市関係者折衝	むつ商工会議所
09.04	第一回教室用教材協力依頼	青森県増養殖研究所ほたて貝部
09.10	むつ市関係者折衝	むつ市漁協、青森県むつ水産事務所
	むつ市関係者折衝	むつ市海と森ふれあい体験館
10.02	むつ市キックオフミーティング	域外アドバイザー、むつ市教育委員会、勇気ランド子ども教室、わくわく教室、むつ市漁協、むつ商工会議所女性会、みそ貝焼き名人
10.04	第二回教室に向け会場予約	むつ市教育委員会より下北文化会館へ
10.04	第一回・二回教室に向けバス予約	下北交通へ

月日	活動	折衝先、参加者等
10.14	プレスリリース	むつ市教育委員会より市役所記者クラブ
10.16	第一回教室備品、材料等調達手配	
10.20	むつ市事前確認、準備	青森県増養殖研究所ほたて貝部
	むつ市事前確認、準備	青森県生涯学習課
21	むつ市事前確認、準備	むつ市海と森ふれあい体験館
	むつ市事前確認、準備	むつ市漁協
	むつ市事前確認、準備	青森県むつ水産事務所
	むつ市事前確認、準備	希望の友保育園・幼稚園
10.22	第一回教室用教材準備(DVD)編集	
10.22	参加人数の一次把握	
10.27	むつ市第一回教室開催	むつ市海と森ふれあい体験館にて
11.02	東奥日報記事掲載	東奥日報
11.04～	第二回教室備品、材料等調達手配	
11.07	第二回参加人数概定、調理数等手配	
11.21	第二回教室備品、材料等調達手配	
11.22	むつ市第二回教室開催	下北文化会館にて

3) 実施に到る折衝、準備のポイント

- ◆細かな折衝や準備、節々で提起された実施上の課題、その解決や対応は以下のような経緯で行った。

①むつ市むつ市教育委員会より市内放課後子ども教室に当プログラムの実施受入を打診

<平成 21 年 5 月 23 日：むつ市教育委員会生涯学習課が対応>

- ・当社で前年度資源エネルギー庁委託の食による地域おこし調査を行い、むつ商工会議所等の協力を得てホタテ「みそ貝焼き」への取り組みの掘り起こしを行なった経緯があり、むつ市でのホタテ教室を企画し、貴省前年度委託「総合的放課後対策調査」でお世話になった青森県教育庁生涯学習課を介してむつ市教委に実施を打診した。
- ・教育委員会担当者が市内の全放課後教室(6 教室)をまわっていただき、2 教室が実施受入を了承。

②市教育委員会担当者、受入放課後子ども教室スタッフとの事前確認・調整打合せ

<平成 21 年 8 月 26 日：むつ市教育委員会生涯学習課、2 教室コーディネーター、開発計画研究所>

- ・実施方針について概ねの合意を得るが、船上から「ホタテ養殖」見学は不可能との指摘あり。
- ・放課後子ども教室から外に出て見学・体験などすることは可能。ホタテ教室の参加

者費用負担はさせられない。子ども達の行事保険は不要。

- ・2教室中1教室では厨房利用の面で懸念があり、調理設備のある公共施設での共同実施の方向となった。
- ・キックオフミーティングは10月2日開催に決定。
- ・第一回教室は10月18日開催も検討したが準備時間が不足。2小学校とも10月25日、26日が学芸会のため、これ以前の第一回教室開催は難しいが、27日(月・代休)でなら開催可能。あとに延ばすと、二回、三回の開催に支障が出る。

③産業界への協力依頼その1：むつ市漁協、青森県むつ水産事務所

<平成21年8月27日：むつ市漁業協同組合、青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所、開発計画研究所>

- ・「ホタテ養殖」の現地見学は不可能(船に乗らないと見えない)。
- ・県の漁業PRや担い手育成事業に参加する形で、小学生対象のホタテ学習に関わることはあるが、むつ市漁協が主体で積極的に関わることは難しい。漁協(事務局)は、「組合員」のための事業が優先であり、また、多忙な組合員に見学案内、料理指導などを頼むことは難しい。ホタテ加工施設も、衛生・安全面の問題があって見学は難しい。
- ・青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所の普及課長にも急遽打合せに参加してもらい、内容や進め方について見直しの必要性や見直し案にアドバイスをいただいた。
- ・三回の教室開催は漁協に負担がかかりすぎるし、内容的にも、欲張らずに二回におさめた方がよい。
- ・第一回では「ホタテ養殖」見学が無理であり、養殖のビデオを見て、話を聞くだけでは子どもが興味を持ってくれないのではないかと。青森県水産総合研究センター増養殖研究所でホタテ稚貝のしおりづくり体験を行なっているのでプログラムに取り入れてみては。
- ・漁協の加工施設見学は難しいが、企業では見学を受け入れている所があるし、ホタテの様々な加工品・土産品を扱っている販売施設を見学するというコースも考えられる。

④産業界への協力依頼その2：むつ商工会議所

<平成21年8月27日：むつ商工会議所、開発計画研究所>

- ・「みそ貝焼き」PR イベント用に、直径50cm・アルミ製でホタテ貝殻を模した大鍋を製作中である。9月以降、「みそ貝焼き」名人に様々なイベントで大鍋「みそ貝焼き」を作ってもらおう。放課後海とホタテ教室でも大鍋を取り入れれば子ども達が喜ぶはず
- ・ホタテ養殖や加工の見学が難しくければ、むつ市海と森ふれあい体験館を見学し、五十嵐館長の話を聞くといい。陸奥湾の生物や環境に大変詳しく、子ども達への対応にも慣れている。

⑤産業界への協力依頼その3：青森県水産総合研究センター増養殖研究所ほたて貝部

<平成21年9月4日：青森県水産総合研究センター増養殖研究所ほたて貝部へ電話で

依頼>

- ・青森県むつ水産事務所の紹介を得て、ホタテ稚貝しおりの作成、材料提供等に協力を依頼し了解を得た。

⑥産業界への協力依頼その4：むつ市漁協、青森県むつ水産事務所

<平成21年9月10日：むつ市漁業協同組合、青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所、開発計画研究所>

- ・教室は計二回にし、第一回はふれあい体験館での開催とし、漁協では荷捌き施設を外から見るだけにし、漁協によるホタテ貝や養殖についての説明は体験館まで出向いてもらうことにした。第二回の「みそ貝焼き」教室については、漁協からは人は出してもらわず、ホタテ貝のみ提供いただくこととした。漁協作成の「ホタテ料理」小冊子も提供いただくことにした。
- ・第一回、第二回教室のおよその行程と漁協、県水産事務所の役割、説明内容等について合意

⑦産業界への協力依頼その5：むつ市海と森ふれあい体験館

<平成21年9月10日：むつ市海と森ふれあい体験館、開発計画研究所>

- ・第一回教室の主会場はふれあい体験館とし、前半は五十嵐館長にプログラム実施をお願いする（磯あそび、陸奥湾の生物おはなし、館内見学）ことで合意。後半は、陸奥湾のホタテ養殖のビデオ上映と漁協等の補足説明、最後にホタテ稚貝しおりづくり。
- ・雨天の場合は、磯あそびはできないので、陸奥湾の生きもの下敷きづくりを行なう。

⑧キックオフミーティング：主要関係者が会し、本番に向け本格的に活動開始

<平成21年10月2日：域外アドバイザー、むつ市教育委員会、勇気ランド子ども教室、わくわく教室、むつ市漁協、むつ商工会議所女性会、みそ貝焼き名人、開発計画研究所>

- ・[域外アドバイザーより]横浜などの都市に比べると放課後教室で取り上げられる様々な素材がある。子どもにとって、また関わる大人にとっても「何が楽しいか」を第一に考えて取り組むとよい。そうでないと長続きしない。
- ・[域外アドバイザーより]横浜や世田谷などで、地域の企業やプロの無償協力を得て、継続的な放課後プログラムを企画、提案、実施している。ホタテ教室はここだからできるユニークなプログラムだと思うが、継続させるには、地域の団体や教室が主体的に意識を持ち活動する必要がある。
- ・第一回を10月27日開催、第二回を11月22日開催とする。
- ・子ども達は「漁協」の仕事をあまり知らないだろうし、むつ市内でも、旧むつ、川内、脇野沢、大畑それぞれで漁協の内容が異なる。この放課後教室のような機会に、子ども達にそして子ども達を介して保護者の方々にむつ市の漁業やホタテをPRすることは漁協にとっても意味があると考えます。
- ・放課後教室の子ども達のお母さん方も陸奥湾でホタテが多くとれることは知っているがそれがどのような人たちの手を経て家庭まで来るのかはあまり知らない。また、若いお母さんには「みそ貝焼き」を食べたことのない人もかなりいる。この「ホタテ教

室」を子ども達も保護者も楽しみにしている。

- ・「ホタテ養殖」や「ホタテ料理」を取り上げるのに加えて、「ホタテ貝のリサイクル」の内容にもふれられるといいのではないか。
- ・第二回の「みそ貝焼き」教室は、名人の大鍋「みそ貝焼き」とむつ商工会議所女性会による普通の貝殻での「みそ貝焼き」2〜3種とする。こちらは、できれば、子ども達が好みの貝を選んで盛り付けるマイ「みそ貝焼き」にできれば、よりよい。「みそ貝焼き」にはごはんが付き物なので、名人にごはん炊きも願います。
- ・具材、だし、みそ、卵等は名人と女性会に調達をお願いする。早めに参加人数を知らせる。
- ・ホタテ貝殻、一人前用簡易コンロ台、ホタテ身等は当社で調達する。
- ・子ども達用の参加募集チラシについて、案内だけでなく「申し込み記入欄」が必要。
- ・チラシは至急手直しして、10月8日には配布してもらえるようにする。22日には参加人数を把握したい。

⑨第二回教室に向け予約、手配等

◇第二回会場手配

<平成21年10月4日：むつ市教育委員会より下北文化会館へ>

- ・厨房スペースの広さ、予想される衆議院議員選挙会場などの関係で、11月22日使用で下北文化会館を予約。

◇募集チラシ作成、配布

<平成21年10月9日：開発計画研究所より2教室へ>

- ・放課後子ども教室で子ども達に配布し「海とホタテ教室」への参加を呼びかけるための案内・募集チラシを作成し、教室で配布した。

◇第一回・第二回教室に向けバス予約

<平成21年10月9日：開発計画研究所より下北交通へ>

- ・下北交通、尻屋観光より見積りを取り、下北交通に仮予約。

⑩プレスリリース：マスコミ各社へ教室開催情報提供、取材依頼

<平成21年10月14日：むつ市生涯学習課よりむつ市役所記者クラブへ>

- ・報道各社向け「取材のお願い」：『むつ放課後海とホタテ教室』プログラムの実施について、むつ市教委より記者クラブに情報提供していただいた。

⑪産業界への協力依頼その6：青森県水産総合研究センター増養殖研究所ほたて貝部

<平成21年10月20日：青森県水産総合研究センター増養殖研究所ほたて貝部、開発計画研究所>

- ・しおりの作り方を実習させていただき、ホタテ稚貝を提供いただいた。

⑫県に今年度実施に向けた活動報告と次年度協力要請

<平成21年10月20日：青森県教育庁生涯学習課、開発計画研究所>

- ・年明けに、県庁の農業部署、水産部署、林業部署の普及PR担当者に対して、次年

度以降の放課後教室への協力依頼を行ないたい旨をお願いした。

⑬本番に向け関係者事前確認、準備

◇むつ市海と森ふれあい体験館

<平成 21 年 10 月 21 日：むつ市海と森ふれあい体験館、開発計画研究所>

- ・10 月 27 日の第一回教室当日の流れ、役割分担、備品調達・準備、手伝いスタッフ確保等について確認、打合せ。

◇むつ市漁協

<平成 21 年 10 月 21 日：むつ市漁業協同組合、開発計画研究所>

- ・10 月 27 日の第一回教室の際に、生きたホタテ貝を持参いただき、ホタテが動いたり泳いだりするところを見せたい旨を依頼。

◇青森県むつ水産事務所

<平成 21 年 10 月 21 日：青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所、開発計画研究所>

- ・10 月 27 日の第一回教室当日の流れ、役割分担、備品調達・準備について確認、打合せ。
- ・年明けの次年度戦略会議に向けて県庁の水産担当につないでいただきたい旨をお願い。

◇希望の友保育園・幼稚園

<平成 21 年 10 月 21 日：希望の友保育園・幼稚園、開発計画研究所>

- ・第二回「みそ貝焼き」教室の進め方、「みそ貝焼き」の由来、次年度以降の取り組み方針などについて意見交換。

⑭第一回教室用教材準備(DVD)編集

<平成 21 年 10 月 22 日>

- ・第一回教室で上映する教材として、青森県産業総合研究センター増養殖研究所ほたて貝部より借用した「陸奥湾のほたて養殖」等の DVD を編集。

⑮参加人数の一次把握

<平成 21 年 10 月 22 日：2 教室より開発計画研究所へ>

⑯第一回「むつ放課後海とホタテ教室」開催

<平成 21 年 10 月 27 日：むつ市海と森ふれあい体験館にて>

- * 19 頁～の実施結果参照

⑰新聞記事掲載

<平成 21 年 11 月 2 日>

- ・東奥日報紙上に、第一回の開催状況(写真入り)と、第二回の簡単な案内が掲載された
- * 36 頁の掲載記事参照

⑱第二回教室開催に向け備品、材料等調達手配

<平成 21 年 11 月 4～21 日：2 教室、むつ市漁協、むつ市教育委員会、開発計画研究所>

- ・ホタテ貝殻、簡易コンロ台、布巾、雑巾、鉛筆・消しゴム、固形燃料、割り箸、ゴミ袋他を関係各者で分担して手配。

⑱第二回「むつ放課後海とホタテ教室」開催

<平成 21 年 11 月 22 日：下北文化会館にて>

*28 頁～の実施結果参照

(2) 教室内外への広報・PR

1) 教室の子ども達と保護者への呼びかけ

- ◆関係者折衝でほぼ内容が固まったあと、第一回教室開催の三週間前を目標にしていたがやや遅れて、10月9日に、教室スタッフから子どもたちに以下の案内・募集チラシを配布してもらった。

「ほうかご海とホタテ教室」 のおしらせ

「むつ市わくわく教室」と「むつ市勇氣ランド子ども教室」では、「ほうかご海とホタテ教室」に参加することになりました。

10月27日(代休)と11月22日(土)の二回の教室が予定されています。

★二回とも、教室集合でバスの送りむかえがあります。

★参加費は無料です。★保護者の方も参加可能です(子ども達の手助けをお願いします)

できるだけ多くの方で参加したいと思しますので、おうちのかたと相談してみてください。

参加できるかどうかを、「参加について」の用紙に記入して教室の先生に提出してください。



「むつ ほうかご海とホタテ教室」のあんない

第1回：海と森ふれあい体験館で「見て聞く」教室

★日にち 10月27日(学芸会の代休でお休み)

★集合 わくわく教室、勇氣ランドとも 午後1時集合

★解散 わくわく教室は、午後5時解散

勇氣ランドは、午後5時10分解散

★内容

- ・体験館や海で、海と生きものについて見たり聞いたりします。
- ・ホタテようしょくについてビデオを見て、漁協の仕事について話しをききます。
- ・小さな赤ちゃんホタテ貝でかわいいしおりを作ります。



第2回：下北文化会館で「料理を学んで食べる」教室

★日にち 11月22日(土)

★集合 わくわく教室、勇氣ランドとも 午前9時20分集合

★解散 わくわく教室、勇氣ランドとも 午後1時35分解散

★内容

- ・「みそ貝焼き」などホタテ料理の話をお聞きします。
- ・「みそ貝焼き」名人が大なべで「ビッグ貝焼き」を作るのを見たり、1人前ずつの「マイみそ貝焼き」をつくりたい。
- ・みんなで、「みそ貝焼き」を食べて、海とホタテ教室の感想などを話します。



<保護者の方へ>★本事業は、文部科学省のモデル事業として、むつ市漁業協同組合、青森県むつ水産事務所、青森県水産総合研究センター増養殖研究所、むつ市海と森ふれあい体験館、むつ商工会議所、むつ市教育委員会等の協力を得て、機関発計画研究所が実施するものです。★内容につきましては、一部変更の可能性もありますのでご了承下さい。★お問い合わせは、両教室をお願いします。必要に応じて機関発計画研究所で対応させていただきます。

第一回 「むつ放課後海とホタテ教室」【見て聞く教室】

平成20年10月27日(月:第三田名部小学校、大平小学校は学芸会の代休)

時刻	活動内容
13:00	集合 わくわく教室、勇気ランド子ども教室に集合
13:10	大曲発 勇気ランド子ども教室より、「むつ市漁協」(大湊)に向け出発
13:20	山田町発 わくわく教室より、「むつ市漁協」(大湊)に向け出発
13:25	「むつ市漁協」に立ち寄って、荷捌き施設を見ながら、簡単に説明を聞く
14:00	川内着 「海と森ふれあい体験館」到着
「海とホタテ」教室(会場:「むつ市 海と森ふれあい体験館」 川内)	
14:05	①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などを説明
14:10	②「青森の海と生きもの」を学ぶ i.「磯に出よう」 ii.館内見学 iii.「青森の海と生き物」お話し
15:00	休 憩
15:05	③「ホタテようしょく」と「ぎょきょう」のしごとを学ぶ i.「陸奥湾のほたて養殖」DVD上映(漁協 木村統括、県 今井課長より補足説明) ii.むつ市漁協、県むつ水産事務所よりお話し
15:30	④ホタテの赤ちゃん貝で記念のしおりを作ろう
16:05	⑤まとめとお礼
16:20	川内発 「海と森ふれあい体験館」出発
17:00	山田町着 わくわく教室到着、解散
17:10	大曲着 勇気ランド子ども教室到着、解散

第二回 「むつ放課後海とホタテ教室」【料理を学んで食べる教室】

平成20年11月22日(土)

時刻	活動内容
9:20	集合 わくわく教室、勇気ランド子ども教室に集合
9:30	大曲発 勇気ランド子ども教室より、「下北文化会館」に向け出発
9:30	山田町発 わくわく教室より、「下北文化会館」に向け出発
9:50	「下北文化会館」到着
「ホタテ料理を学んで食べる」教室(会場:「下北文化会館」)	
10:00	①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ、食べどころ」などを説明
10:10	② 古くて新しい「みそ貝焼き」のおはなし i.「みそ貝焼き」ってどんな料理だろう(由来、歴史)、ほかにはどんなホタテ料理があるかな? ii.色んな工夫で、むつ市の新しい名物「みそ貝焼き」が生まれているよ(「みそ貝焼き」コンテストの紹介)
10:30	休 憩
10:35	③「みそ貝焼き」づくりを手伝おう i.本日のおすすめ「みそ貝焼き」の紹介(名人の「ビッグみそ貝焼き」、むつ地区のおすすめみそ貝焼き) ii.「みそ貝焼き」名人のビッグみそ貝焼きづくりを見よう iii.マイ「みそ貝焼き」をトッピングしよう iv.「みそ貝焼き」に火をつけよう
11:30	④ 名人の「ビッグみそ貝焼き」と「マイみそ貝焼き」を食べながら、話しをして親ほくを深めよう
12:30	⑤ 感想とお礼のことばを書こう
13:00	まとめとお礼
13:15	「下北文化会館」出発
13:35	山田町着 わくわく教室到着、解散
13:35	大曲着 勇気ランド子ども教室到着、解散

「ほうかご海とホタテ教室」 への参加について

- ★参加できる人もできない人も、この用紙を教室の先生まで提出して下さい。
- ★できましたら、10月15日(水)までに提出をお願いします。
- ★お子さん一人につき、一枚ずつ提出して下さい。
- ★できましたら、二回とも参加をお願いします。

教室名 (どちらかに○)	1. わくわく教室	2. 勇気ランド子ども教室
お名前	学 年	
参加できるかどうか		
第1回(10月27日) 「見て聞く」教室	1. 参加できる → 2. 参加できない 3. 今はわからない *いつぐらいならわかりますか? ()	*保護者の方の参加は? 1. 参加 2. 不参加 ()名
第2回(11月22日) 「料理を学んで 食べる」教室	1. 参加できる → 2. 参加できない 3. 今はわからない *いつぐらいならわかりますか? ()	*保護者の方の参加は? 1. 参加 2. 不参加 ()名

その他
* 食物アレルギー、車酔いなど、注意や配慮を要する点などがありましたら、ご記入下さい。

2) 地域への呼びかけ（プレスリリース資料）

- ◆ 第一回教室開催の約二週間前に以下のような資料を作成し、むつ市教育委員会よりむつ市役所記者クラブでプレス発表をしていただいた。

平成20年10月14日

報道関係者のみなさま

(株)開発計画研究所

東京都文京区小石川 1-2-4

電話 03-3811-5119 FAX03-3811-5157

文部科学省委託による「むつ放課後海とホタテ教室」プログラムの実施について (取材のお願い)

私どもは民間の調査研究会社ですが、今年度文部科学省委託事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」の「放課後活動支援モデル事業」として、むつ市内の二つの放課後子ども教室の参加を得て、「むつ放課後海とホタテ教室」プログラムを実施致します。

「放課後活動支援モデル事業」は、文部科学省が、「地方公共団体と連携の上、放課後子どもプランの取組のモデルとなるような、先進的・効果的な取組(モデルプラン)」を全国から募集し、モデル性の高い取組に対して、文部科学省がその実施を委託するものです。

(株)開発計画研究所では、むつ市教育委員会、青森県教育庁生涯学習課、むつ市漁業協同組合、むつ市海と森ふれあい体験館、むつ商工会議所等の協力を得て、「むつ放課後ホタテ教室」プログラムの実施を文部科学省に企画提案し、モデル事業として採択されました。

事業の実施概要は以下のようになっておりますので、取材や記事紹介などを行なっていただければ幸いに存じ、お願いを申し上げます。

<文部科学省委託「むつ放課後海とホタテ教室」実施概要>

1. 事業のねらい

- ① 漁業関係者等の協力を得て、むつ市内の放課後子ども教室の魅力アップにつながるプログラムを実施する
- ② むつ市の主要水産資源であるホタテを取り上げることによって、放課後子ども教室の子ども達が楽しみながら、漁業や環境とホタテなどの海の生き物、そしてこれらを活かす料理などについて興味を持って学べる教室を実施する。
- ③ 産業関係者にとっても、漁業やホタテ等特産品のPRにつながる教室内容とする。
- ④ 次年度以降も、両教室及び市内の他の教室で「海とホタテ教室」を実施すること、また、むつ市漁協に限らず、他の漁協や漁業関係者、農協等農業関係者、製造業者等による放課

後子ども教室プログラムが実施されることをめざす。

- ⑤他地域においても、産業関係者の協力を得て、放課後子ども教室とそのプログラムを魅力的なものにすることを促すモデルケースとして示すことができるように、むつ市で取組を実施しその取組経過及び取組結果、成果と課題をとりまとめ、全国に紹介する。

2. 「むつ放課後海とホタテ教室」プログラムの実施概要

【参加教室】

- ◆むつ市わくわく教室（毎週水曜・山田町集会所にて：登録児童 26 名）
- ◆むつ市勇気ランド子ども教室（月～土曜・希望の友保育園にて：登録児童 35 名）

【海とホタテ教室の開催】

下記の 2 回の教室に、上の 2 教室の児童と保護者、関係者が参加する。

*詳しい日程は後掲

①第 1 回：海と森ふれあい体験館で「見て聞く」教室

- ★日時：平成 20 年 10 月 27 日(月) 午後 2 時～4 時 20 分
- ★会場：むつ市海と森ふれあい体験館(むつ市川内町川内 477 番地)

②第 2 回：下北文化会館で「料理を学んで食べる」教室

- ★日時：平成 20 年 11 月 22 日(土) 午前 10 時～午後 1 時 15 分
- ★会場：下北文化会館(むつ市金谷 1 丁目 10 番 1 号)

3. 事業委託

文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課 放課後子どもプラン連携推進室

4. 事業受託、実施

株式会社 開発計画研究所（東京都文京区小石川 1-2-4）

5. 連携・協力

むつ市教育委員会生涯学習課 青森県教育庁生涯学習課
むつ市漁業協同組合 青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所
むつ市海と森ふれあい体験館 むつ商工会議所
青森県水産総合研究センター増養殖研究所ほたて貝部

<お問い合わせ>

(株)開発計画研究所 当事業担当

〒1120002 東京都文京区小石川 1-2-4 電話 03-3811-5119 FAX03-3811-5157

(3) 実施当日に向け役割、流れの確認

1) 第一回「むつ放課後海とホタテ教室」

- ◆第一回「むつ放課後海とホタテ教室」の実施に当たり後掲するような流れと役割分担の表を作成し、関係者に確認を行い、段取り、準備等に漏れがなく、現場での実施がスムーズに行くように努めた。
- ◆なお、当日の役割分担をもとに、事前の準備・手配等進行表（いつまでに、誰が何を準備するか）を作成し、節々で当社から確認、お願いをしながら実施当日に備えた。
- ◆当日の流れは、むつ市海と森ふれあい体験館で実施し、主たる進行も体験館の五十嵐館長にお願いしたので、カニやホタテの現物を見せて触れさせ学習ポイントもおさえられていて、流れもスムーズで時間も配分も適確であった。子どもたちにわかりやすくホタテ養殖を理解してもらった映像の準備、「ホタテ稚貝によるしおりづくり」のための材料や用具の準備など、裏方の準備には手間を要した。

第一回「むつ放課後海とホタテの教室」【見て聞く移動教室】

平成20年10月27日(月)

時刻	活動内容	役割分担					調達・手配		
		わくわく教室 勇氣ランド教室	むつ市生涯学習課	事務局 開発計画研究所	むつ市海と森 ふれあい体験館	むつ市 漁業協同組合	青森県むつ水 産事務所	内容	調達先
13:00	集合 わくわく教室、勇氣ランド子ども教室に集合	□説明、点呼等の後バス乗		□両教室にバス手配(大型各1台)				◆大型バス:2台	下北交通
13:10	大曲 勇氣ランド子ども教室より、「むつ市漁協」(大湊)に向け出発	□バス内対応(車酔い等)							
13:20	山田 わくわく教室より、「むつ市漁協」(大湊)に向け出発	□バス内対応(車酔い等)							
13:25	「むつ市漁協」に立ち寄り、荷捌き施設を見ながら、簡単に説明を聞く			13:00 漁協にてバスと合流 □ビデオ記録(全体通じ)	五十嵐館長と事前確認			◆8mmムービー ◆デジカメ	開発計画 開発計画
14:00	川内 「海と森ふれあい体験館」に着			□体験館正面で集合スナップ					
「海とホタテ」教室(会場:「海と森ふれあい体験館」 川内)									
14:05	①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などを説明	□児童に混じりサポート、声かけ	□あいさつ	□あいさつ、説明				◇謝金等	
14:10	②「青森の海と生きもの」を学ぶ i.「磯に出よう」 ii.館内見学 iii.「青森の海と生き物」お話し			2班に分ける場合は、両教室ごと □磯で体験館/バックに集合スナップ	□磯と館内の見学、館長のおはなし ・2班の際の対応 ・雨天の際の下敷きづくり等の手配			◇雨天時の下敷きキット:50人	体験館
15:00	休憩								
15:05	③「ホタテ養殖」と「漁業」の仕事」を学ぶ i.「陸奥湾のほたて養殖」DVD上映 ii.むつ市漁協、県むつ水産事務所よりお話し			□DVD操作、途中で止めながら漁協等の補足促す ・「貝殻リサイクル」ビデオ準備		□ビデオ中の補足、ビデオ後に漁協の仕事の説明をいただく(5分程)	□ビデオ中、及びビデオ後の補足説明	◆DVD映写装置 ◆モニター、スクリーン ◆ホタテ養殖DVD ◆貝殻リサイクルDVD	体験館 体験館 増養殖研 増養殖研
15:30	④「ホタテの赤ちゃん貝で記念のしおりを作ろう」			□しおりづくり指導補助 □謝金支払い ・館長:案内謝金 ・体験館として:協力謝金 ・漁協へのお礼	□しおりづくりサポート		□しおりづくり指導	◆ホタテ稚貝 50 ◆フィルム ◇台紙 ◇リボン	50 増養殖研 開発計画 開発計画 開発計画
16:05	⑤「まとめとお礼」	□子ども感想を引き出し、あいさつ		□あいさつ、第二回案内 □館内でしおり持って集合スナップ				◇感想用紙 *アンケート、次回案内入り	開発計画
16:20	川内 「海と森ふれあい体験館」出発	□バス内対応							
17:00	山田 わくわく教室到着、解散	□バス内対応							
17:10	大曲 勇氣ランド子ども教室到着、解散	□バス内対応							

2) 第二回「むつ放課後海とホタテ教室」

- ◆第二回「むつ放課後海とホタテ教室」は、「みそ貝焼き」を作って食べることが山場で、その部分については、手慣れた「みそ貝焼き名人」、「むつ商工会議所女性会」の協力を得ていたため準備も当日の実施も比較的スムーズであった。
- ◆しかし、一人一食を調理できる「焼き」の用具・燃料等を放課後教室で実施可能な範囲で負担を少なく確保すること、また、ただ食べて終わりにせず「みそ貝焼き」をきっかけに、むつ市・下北半島の食文化や「貝焼き」に限らないホタテの料理・食文化、さらにはホタテ貝殻処理から環境対策にも目を向けさせることなどを、限られた時間の中で、子どもたちに興味を持続してもらいながら学んでもらうための内容の検討や実施には色々手間と工夫、知恵を要した。

第二回「むつ放課後海とホタテの教室」【料理を学んで食べる教室】 1/2

平成20年11月22日(土)

時刻	活動内容	役割分担						調達・手配		
		わくわく教室 勇氣ランド教室	むつ市生涯学習課	事務局 開発計画研究所	むつ市漁業協同組合	青森県むつ水産事務所	みそ貝焼き名人	むつ商工会議所女性会	内容	調達先
9:10	大曲 勇氣ランド子ども教室より、「下北文化会館」に向け出発	□説明、点呼等の後バス乗車		□バス手配(大型1台)					◆大型バス:1台	・下北交通 ★支払いあり
9:25	「下北文化会館」到着			09:00～ 関係者に流れなど再確認 □文化会館にて両教室出迎え □ビデオ記録(全体通じて)★8mmVでビデオ上映の際は、デジカメで撮影	□10:00までにホタテ、「むつホタテ」料理小冊子を届けていただく				◆ホタテ(殻つき)25枚 ◆「むつホタテ」料理小冊子 70冊	・むつ市漁協 ★支払いあり
9:40	山田 わくわく教室より、「下北文化会館」に向け出発	□バス内対応(車酔い等)								
9:50	「下北文化会館」到着									
「ホタテ料理を学んで食べる」教室(会場:「下北文化会館」)										
10:00	①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ、食べどころ」などを説明	□児童に混じりサポート、声かけ	□あいさつ	□あいさつ、説明 □簡単に、第一回の振り返り(アンケート、実施レポートなど)					◇第一回アンケート結果概要 ◇第一回実施レポート概要	・開発計画 ・開発計画
10:10	②古くて新しい「みそ貝焼き」のおはなし i. 「みそ貝焼き」ってどんな料理だろう(由来、歴史)、ほかにはどんなホタテ料理があるかな? ●「みそ貝焼き」って? 作り方は? ビデオ ●「みそ貝焼き」ファイル(配布のみ) ●「むつホタテ」小冊子で料理紹介 ●「こんなホタテ料理もあるよ」ビデオ(時間があれば)		□司会、進行	□進行:保護者の方やスタッフにも話しを聞いかけ	□「むつホタテ」料理小冊子提供いただく	□左資料(「むつホタテ」料理小冊子)等をもとにお話しいただく			◆「貝焼きって?」8mmV ◆「貝焼き」ファイル ◆料理小冊子70冊 ◆「こんな料理も」8mmV ◆ビデオ、TVセット	・開発計画 ・開発計画 ・むつ市漁協 ・開発計画 ・文化会館 ★支払いあり
	ii. 色々な工夫で、むつ市の新しい名物「みそ貝焼き」が生まれているよ(「みそ貝焼き」コンテストの紹介) ●コンテストポスター、新聞記事など ●みそ貝焼き名人のおはなし			□進行:名人にコメントいただく			□コンテストでの二連覇や、他の貝焼きについてのお話し		◇コンテスト記事 ◇コンテスト写真 ◇コンテストポスター	・開発計画 ・開発計画
10:30	休憩									

第二回「むつ放課後海とホタテの教室」【料理を学んで食べる教室】 2/2

時刻	活動内容	役割分担				調達・手配			
		わくわく教室 勇氣ランド教室	むつ市生 涯学習課	事務局 開発計画研究所	むつ市漁協	青森県むつ水産 事務所	みそ貝焼き名人	むつ商工会議所 女性会	内容
10:35	③「みそ貝焼き」づくりを手伝おう			□配席(どこに、どんな まつまりですわってもら うか?)				◆大鍋 ◆大鍋用ガス台	・名人 ・名人
	i. 本日のおすすめ「みそ貝焼 き」の紹介(名人の「ビッグ みそ貝焼き」、むつ地区のお すすめ貝焼き)	□児童に混じり サポート、声かけ		□作り手の方達に、そ れぞれの貝焼き説明 お願い		□本日の「ビッグ みそ貝焼き」に ついてお話し	□本日のおす め貝焼きにつ いてお話し	◆だし、みそ ◆卵 ◆具材 ◆ごはん用の米	・名人、女性 会におまか せ
	ii. 「みそ貝焼き」名人のビッグ みそ貝焼きづくりを見よう			□児童に混じりサポ ート、声かけ		□「ビッグみそ貝 焼き」づくり	□おすすめ貝焼 きのだし、材料 等下ごしらえ		
	iii. 「みそ貝焼き」をトッ ピングしよう	□児童に混じり サポート、声かけ					□盛り付けは、 子ども達一人ひ とり自由に	◆ホタテ貝殻40枚	・開発計画 (野辺地→希 望の友)
11:30	iv. 「みそ貝焼き」に火をつけよ う	□児童に混じり サポート						◆簡易コンロ台、火 皿、敷板 ◇固形燃料・小(3ヶ ×30) ◇着火マン5ヶ ◆ふきん	・開発計画 (キッチン工 房→希望の 友) ・開発計画 (100均) (100均)
11:45	④名人の「ビッグみそ貝焼き」 と「みそ貝焼き」を食べ ながら、話しをして親ほくを 深めよう *様子見て、料理ビデオ、 リサイクルビデオなど	□会食	□会食	□会食 □謝金、材料代、協力 謝金支払い		□会食 *様子次第で、 ホタテ料理ビ デオ、リサイク ルビデオなどに 補足説明をい ただく。	□会食	◆貝焼きおわん ◆ごはん茶碗 ◆湯のみ、コップ ◇はし ◇お茶ペット2.5L4 本 ◇謝金等	・開発計画 (野辺地→希 望の友) ・開発計画 (100円ショッ プ等) ・開発計画
12:30	⑤感想とお礼のことばを書こ う	□児童に混じり サポート、声かけ		□児童に混じりサポ ート、声かけ				◆文科省アンケ ート ◇開発計画アン	・開発計画 ・開発計画 ・勇氣ランド
13:00	まとめとお礼	□あいさつ、お 礼	□あいさつ	□あいさつ					
13:15	「下北文化会館」出発 * 勇氣ランドは13:40発	□説明、点呼等 のあと、バス乗 車		□片付け(食器洗い、 食べ残しほかゴミ始 末)				◆洗剤、スポンジ ◆ゴミ袋	・勇氣ランド ・市、開発計 画
13:25	山田 着	□バス内対応							
13:55	大曲 着	□バス内対応							

(4) 実施結果

1) 参加状況

むつ 放課後海とホタテ教室
参加状況

	子ども	大人		合計	
		保護者	スタッフ		
第一回(081027)					
わくわく教室	10人	4人	1人	3人	14人
希望ランド子ども教室	23人	5人	2人	3人	28人
計	33人	9人	3人	6人	42人
第二回(081122)					
わくわく教室	15人	9人	4人	5人	24人
希望ランド子ども教室	23人	14人	11人	3人	37人
計	38人	23人	15人	8人	61人

2) 実施概要

①第一回「むつ放課後海とホタテ教室」

＊詳しい実施状況は、20頁以降の実施レポートを参照

- ◆第一回「むつ放課後海とホタテ教室」は、次頁以降に示すように、平成20年10月27日に、むつ市川内町の「むつ市海と森ふれあい体験館」を会場に実施した。
- ◆当日は雨模様の天気、最初に予定していた磯あそびが実施できず残念ではあったが、五十嵐館長の子ども対応に慣れた進行のおかげもあって、楽しく学びの実りがあり、下敷きやしおりづくりも体験できるという充実したプログラムとなった。

②第二回「むつ放課後海とホタテ教室」

＊詳しい実施状況は、28頁以降の実施レポートを参照

- ◆第二回「むつ放課後海とホタテ教室」は、28頁以降に示すように、平成20年11月22日に、むつ市役所近くの「下北文化会館」を会場に実施した。
- ◆前夜から早朝まで降った雪が少々残っていたが遅れなく集合でき予定時間通り開始することができた。保護者の参加も多く人数的には少々過剰気味であったが、子ども、大人とも「みそ貝焼き」に満足し、「もっと食べたい」、「また自分で作ってみたい」など好評であった。
- ◆「みそ貝焼き」をきっかけに、むつ市・下北の漁業や食文化、料理等についても学ぶ点については、説明が長く少々難しい点もあったが、興味や意識を持ってもらうきっかけにはなったようである。

3) 実施レポート

①第一回「むつ放課後海とホタテ教室」

事業のねらい むつ市の主要水産資源であるホタテを取り上げることによって、漁業や環境とホタテなどの海の生き物やそれらを食材として使った料理などについて興味をもって楽しく学べる教室の実施をする。

実施日 平成20年10月27日(月) 13時00分～17時10分

参加者 わくわく教室、勇気ランド子ども教室
児童33名(小一15名、小二3名、小三8名、小四5名、小五1名、小六1名)
教室スタッフ6名(安全管理員 名、学習アドバイザー 名)
保護者3名

スケジュール **活動内容**

- 13:00 わくわく教室に集合
- 13:10 勇気ランド子ども教室より「むつ市漁協」(大湊)に向けて出発
- 13:00 勇気ランド子ども教室に集合
- 13:20 わくわく教室より「むつ市漁協」(大湊)に向けて出発
- 13:25 「むつ市漁協」での荷捌き施設見学と説明

漁協荷捌所

「ホタテ貝漁業の話」



むつ漁業協同組合統括 木村 悟氏

むつ湾には古くからホタテ貝が生息していましたが、しかし、ホタテ貝の自然発生は激しい変動の繰り返していたため、安定してホタテ貝をとることは難しく、ホタテ漁の漁師さんは困っていました。

そこで、漁師さんたちが話し合いをし、自分たちでホタテ貝を赤ちやんの貝から育て、大きくなるまで見守って、大人になったらそれをとる「養殖」という方法の漁を考えました。「養殖」は天候などの影響も少なく、数量も計画的に管理できる利点がありますが、これを成功させるまでには、多くの漁師さんたちが一生懸命に研究をし、多くの苦労と努力があったことを忘れてはなりません。

現在では、養殖の技術も飛躍的に発達し、また、施設や設備も整備された大変よい環境でホタテ貝の養殖が行われ、おいしいホタテ貝がみなさんの食卓に上っていると思います。ホタテ貝を食べるときは、このことをちょっと思い出してくれるとうれしいです。



14:00
「海と森ふれあい体験館」
到着

14:05
スタート

14:10
館内見学



①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などの説明

子どもたちに今日の教室の内容を説明し、お話をさせていただく先生方(2名)とそのお手伝いをする担当者が自己紹介をしました。

②「青森の海と生きもの」を学ぶ

ⅰ 館内見学

むつ市海と森ふれあい体験館「シェルホール」に展示されている、地元川内町出身の収集家山口和雄氏のコレクション約300点の貝や貝の化石などを見学しました。山口氏は小学校5年生から40年以上にわたり、世界各国で約2万個もの貝類を収集されています。このコレクションの中には、希少価値が高く学術的に貴重な貝や大変美しい貝などもありました。



左チリメンアオイガイ、中でんでん虫も貝の仲間。色鮮やかな種類が多い。右ヒラサザエ、むつ湾に生息している。

14:20
五十嵐館長
のお話



プロフィール

五十嵐健志 (いがらしたけし)
2004 年からむつ市に移住し、
NPO 法人シェルフォレスト川内
を設立し、活動を展開。
現在、むつ市海と森ふれあい
体験館の館長を勤める。

ii 「青森の海と生きもの」お話

むつ市海と森ふれあい体験館の五十嵐館長さんから「かわうち・まりんぴーち」
に生息しているウミウシ、アメフラシ、イシガニなどの生き物を見ながら、それぞ
れの生態について説明してもらいました。

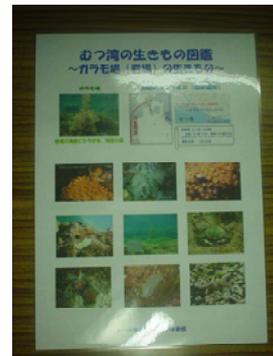
ヤマトオサガニ



14:40
下敷き
づくり

iii 「むつ湾の生きもの図鑑」の下敷きをつくる

「むつ湾の生きもの図鑑」のリーフレットで下敷きをつくりました。



すてきな下敷きができました♪

15:00
休憩

15:05
DVD上映

③「ホタテ養殖」と「漁業のしごと」を学ぶ

i 「むつ湾のホタテ養殖」DVD 上映

DVD を見ながら、むつ漁協の木村さんから詳しく説明をしてもらい、ホタテ貝の養殖について勉強をしました。



15:25
今井課長
のお話

ii 県むつ水産事務所よりお話し

青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所の普及課長今井美代子氏から、青森県の水産業のことや漁協のしごとについてお話をしてもらいました。



15:30
しおり
づくり

④ホタテの赤ちゃん貝で記念のしおりを作ろう

ホタテの赤ちゃん貝(稚貝)で、今日の記念のしおりづくりに挑戦しました。



16:05
まとめ



⑤まとめ(感想)、第2回の案内、お礼

最後に子どもたちには、今日の感想を含めてアンケートを書いてもらいました。第2回「むつ放課後海とホタテ教室」は、11月22日(土)10:00~13:00で開催し、下北地域の郷土料理「みそ貝焼き」をみんなで作って、食べることをお知らせし、参加を呼びかけました。

そして、最後に本日のお礼にお話をいただいた方たちに、「森のくまさん」をみんなで歌いました。



上はアンケートを記入中。下左は「森のくまさん」合唱中。下右は最後にみんなで記念撮影中。

16:20
終了

感想 & 意見



①むつ漁協の木村さんのお話し

- 漁協の仕事内容をもっと知りたい。
- 楽しかった。
- ホタテの船に乗りたかった。
- つまらなかった
- 意味がわからなかった。
- バスからおりたかった。



②「青森の海と生きもの」を学ぶ……五十嵐館長のお話し

- いろいろな生きものがいてすごいと思った。
- 楽しかった。
- おもしろかった。
- 聞きやすく、わかりやすかった。
- もっと聞きたかったし、知りたいと思った。
- 次回は別なことも知りたい。
- むつ湾に生きものがたくさんいることがわかった。





③「ホタテ養殖」と「漁業のしごと」を学ぶ

- ホタテのことがよくわかった。
- 初めて知った。
- 楽しかった。
- もっと聞きたかった。
- ホタテが大きくなるには、たくさんの仕事があることがわかった。
- ホタテのことをもっと知りたい。
- あまりわからなかった。
- つまらなかった。
- ホタテを育てるのは大変だと思った。



③ホタテの赤ちゃん貝で記念のしおりを作ろう

- 初めてのしおりづくりで楽しかった
- おもしろかった。
- 楽しかった。
- もっとつくりたかった。
- 貝がつぶれそうだった。
- ちょっとむずかしかった。



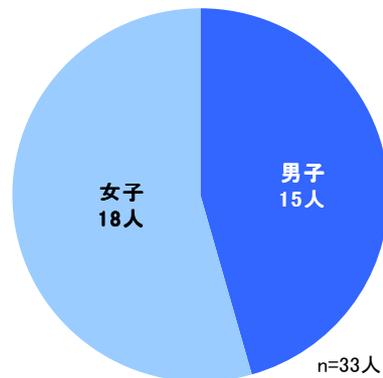
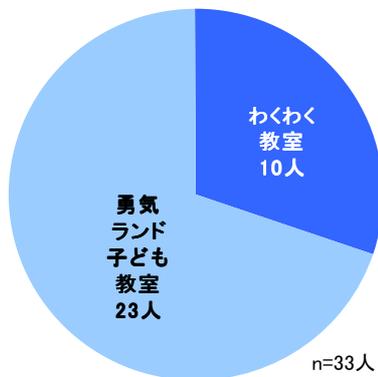
アンケート結果

子どもたちがどれくらい青森県のことを知っているかアンケートをしました。少し、難しかったようですが、がんばって回答してくれました。結果は下記の通りです。

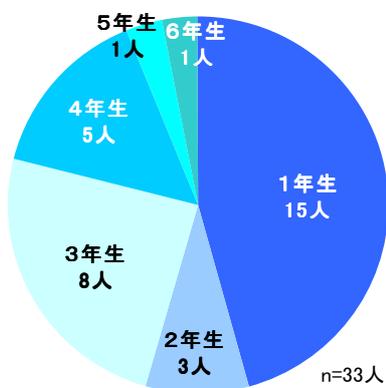
【子ども達の属性】

■ 教室名

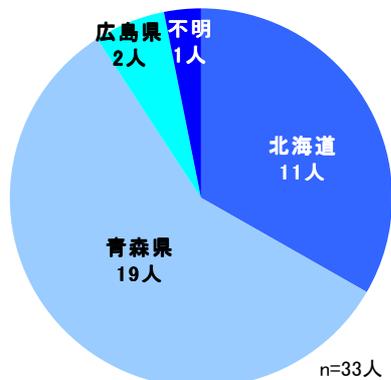
■ 性別



■ 学年

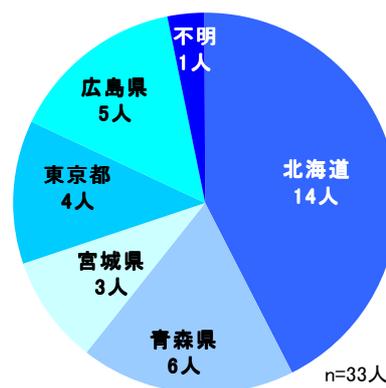


■ ホタテ漁獲高日本一



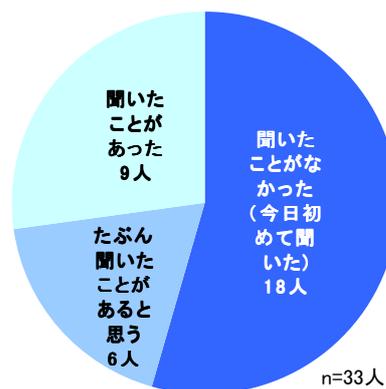
半分以上の子どもたちが「青森県」がホタテ漁獲高日本一であると回答しましたが、北海道が日本一です。

■ ホタテ漁獲高日本二



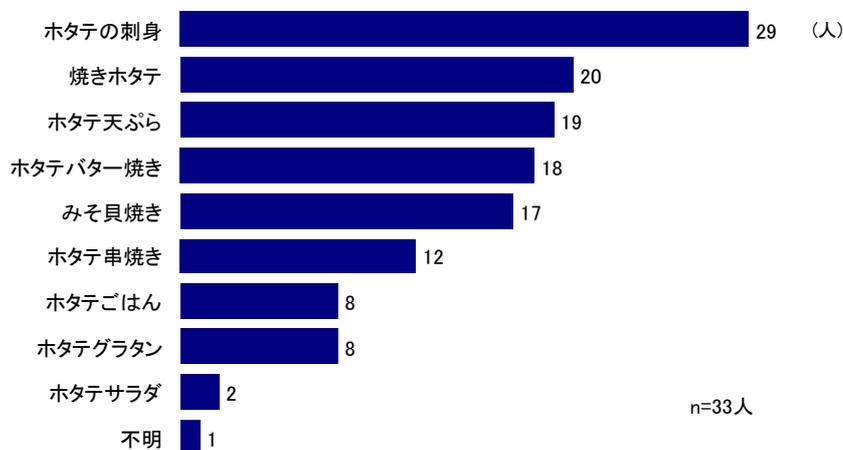
ホタテ漁獲高日本二については、「北海道」と回答が 14 人と最も多かったですが、実際には「青森県」です。

■ 「漁協」という言葉を聞いたことがありますか



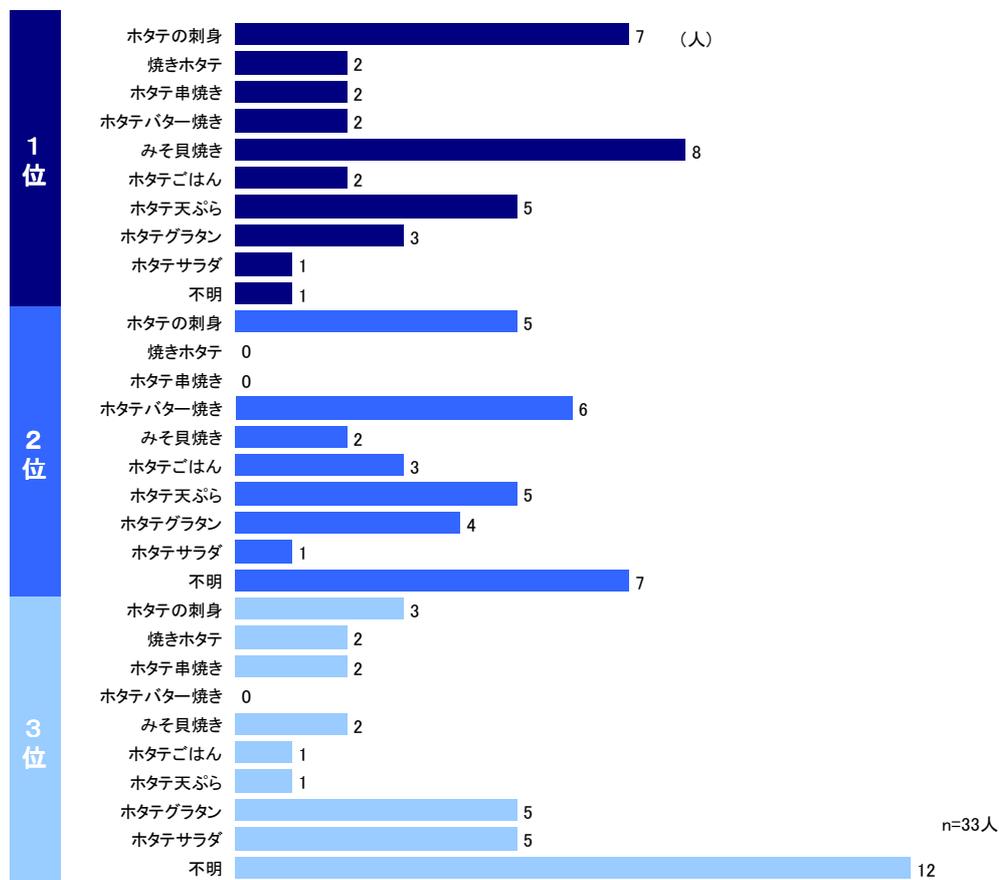
「漁協」という言葉を「聞いたことがなかった」という回答は 18 人と最も多く、反対に「聞いたことがある」は 9人でした。

■ 食べたことがあるホタテ料理



食べたことがあるホタテ料理は「ホタテの刺身」が最も多く、次いで「焼きホタテ」、「ホタテの天ぷら」の順でした。

■ 今日食べたいと思うホタテ料理の1位、2位、3位



今日食べたいと思う料理の1位は「みそ貝焼き」、2位は「ホタテバター焼き」、3位は「ホタテグラタン」と「ホタテサラダ」が一番多かったです。

ふりかえって

- ・参加した子供たちが小学校1年生から6年生と幅があり、理解力の差がでて、低学年の子どもたちには、バスの中での説明だけではよく理解できなかったと思われる。高学年の子どもたちにとっては、物足りなさがあったようだ。また、今回は雨が降ってしまい残念ながら漁協の施設見学を中止したが、天候により、実際に見学できない場合、代替りの説明などの準備が必要。
- ・磯に出られず残念であったが、館長さんの分かりやすい説明と水槽から出された生きものを間近に見て、子どもたちも興味深く観察しているようであった。また、視聴したDVDには、ホタテの養殖の様子がわかりやすくまとめられていて、子どもにも理解できる内容であったと思う。
- ・初めて「むつ市海と森ふれあい体験館」を訪れる子どももいて、身近な場所に恵まれた施設があるので、もっと活用の機会があればよいと思う。
- ・ホタテの稚貝を使ってのしおりは、子どもたちが自分でつくる体験ができ満足している子が多かった。それぞれ助けあいながら、作業ができたことも良かったのではないと思う。

②第二回「むつ放課後海とホタテ教室」



第2回 むつ 放課後海とホタテ教室



料理を学んで食べる教室

わくわく教室 勇気ランド子ども教室
青森県むつ市



事業のねらい

むつ市の主要水産資源であるホタテを取り上げることによって、漁業や環境とホタテなどの海の生き物やそれらを食材として使った料理などについて興味をもって楽しく学べる教室を実施する。

実施日

平成 20 年 11 月 22 日(土) 10 時 00 分～13 時 00 分

開催場所

下北文化会館
むつ市金谷 1 丁目 10 番 1 号

参加者

わくわく教室、勇気ランド子ども教室
児童 38 名
教室スタッフ8名
保護者 15 名

スケジュール

活動内容

10:00
スタート

①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などの説明

子どもたちに今日の教室の内容を説明し、お話やみそ貝焼きを作っていたく先生方とそのお手伝いをする担当者を紹介しました。



10:10
みそ貝焼き
のお話

②古くて新しい「みそ貝焼き」のお話し

i 「みそ貝焼き」ってどんな料理だろう？他にどんなホタテ料理があるのかな？

下北地域の郷土料理「みそ貝焼き」について、その由来や歴史など資料を基に青森県むつ水産事務所の今井普及課長にお話をいただき、また、「みそ貝焼き」の作り方のビデオを見ました。

「みそ貝焼き」の由来、歴史

下北半島の「みそ貝焼き」については、いろいろな定説がありますが、江戸時代に陸奥湾の漁師が、ホタテ貝の貝殻を鍋がわりとして、出汁に魚の切り身などを入れ、自家製の味噌を溶き、稗飯、粟飯と一緒に食べていたことが始まりではないかと伝えられています。

後に、今のような卵を溶いて食べるみそ貝焼きになり、特に病人や妊婦が栄養をつけるために食べさせたといわれています。

この地域では、かいやきがなまって「みそかやき」と呼び、シンプルな料理ですが、各家庭で入れる具材や味も違い、家庭料理として食べられています。



10:25
向井名人
のお話

ii 色んな工夫でむつ市の新しい名物「みそ貝焼き」が生まれているよ～

「みそ貝焼き」のコンテストで二連覇の向井仁名人に、コンテストでつくった「みそ貝焼き」やコンテストでの苦労話や新しい「みそ貝焼き」誕生の秘話、その他のホタテ料理についてお話をいただきました。



10:30
休憩

10:35

ピックみそ貝焼き
おすすめみそ貝焼き
のお話

③「みそ貝焼き」づくりを手伝おう!!!

i 本日のおすすめ「みそ貝焼き」の紹介

向井名人から「ピックみそ貝焼き」と商工会議所女性会の村館さんからむつ地区のおすすめ「みそ貝焼き」についてお話をいただきました。

「ピックみそ貝焼き」



みそ貝焼きコンテストで二連覇を達成した向井名人

むつ地区のおすすめ「みそ貝焼き」



おすすめ「みそ貝焼き」はシンプルな家庭料理

11:05

ピック
みそ貝焼き
づくりの見学

ii 「みそ貝焼き」名人の「ピックみそ貝焼き」づくりを見よう

実際に向井名人が「ピックみそ貝焼き」をつくることを皆で見学しました。



ピックみそ貝焼きの器は、アルミ製で直径が50cmあります。一度に50人前ぐらいのみそ貝焼がつくれます。



11:15
マイみそ貝焼き
のトッピング

iii「マイみそ貝焼き」をトッピングしよう

むつ商工会議所女性部の方におすすめみそ貝焼きのだし汁や材料の下ごしらえをしてもらい、盛り付けは子どもたちが一人ひとり自由に具材を選び、「マイみそ貝焼き」をつくりました。



ちょっと、味見!!



貝のお皿にごぼさないように
溶き卵をいれます

焦がさないようにちゃんと
焼き加減もチェック

11:45
会食

④名人の「ピックみそ貝焼き」と「マイみそ貝焼き」を食べながら、話をして親睦を深めよう

皆で2つの「みそ貝焼き」を食べながら、楽しく歓談をしました。



アツアツのみそ貝焼きをみんなで食べました。

12:30
まとめ

⑤まとめ(感想)とお礼

最後に子どもたちには、今日の感想を含めてアンケートを書いてもらいました。本日の第2回「むつ放課後海とホタテ教室」で「みそ貝焼き」の説明をしていた方や「みそ貝焼き」をつくっていただいた向井名人、むつ商工会議所女性部の皆さんにお礼の言葉をおくりました。



「むつ放課後海とホタテ教室」は
今回で終わりです。
みなさんお疲れさまでした。

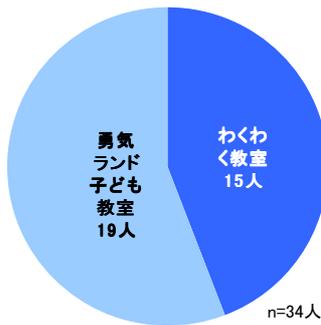
13:00
終了

アンケート結果

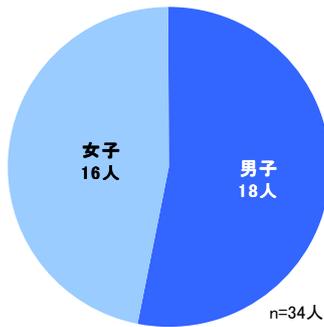
第2回のアンケートは、児童と保護者、教室スタッフ等の大人の方にも回答していただきました。結果は下記の通りです。

【児童アンケート】

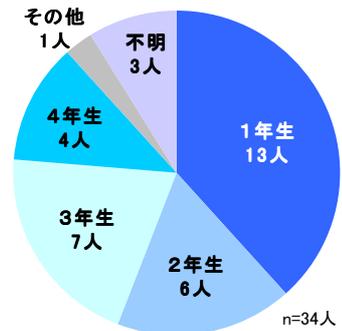
■ 教室名



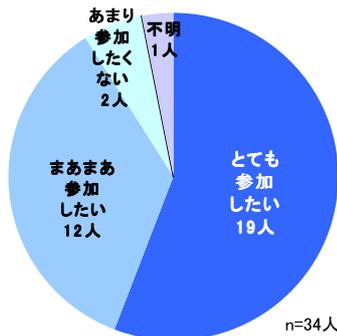
■ 性別



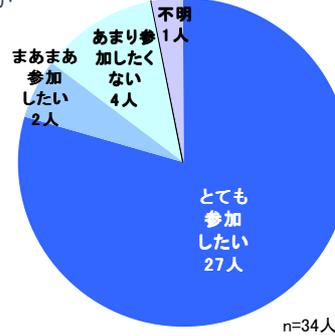
■ 学年



■ 「海とホタテ教室」にまた参加したいと思いますか



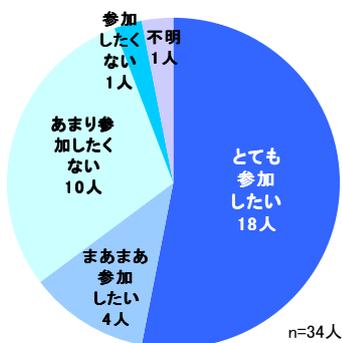
■ 魚を見たり料理を作る教室に参加したいと思いますか



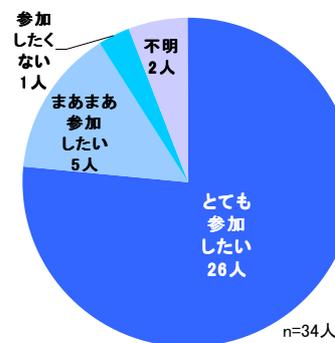
「海とホタテ教室」について、また参加したいと回答した児童は 31 人おり、参加意向は9割以上と高かった。

また、魚を見たり、料理を作る教室についての参加意向は8割以上あり、今回の教室に対する児童の興味が高いことがうかがわれた。

■ 山菜等を採ったり料理を作る教室に参加したいと思いますか



■ 森、木の話や木のおもちゃを作る教室に参加したいと思いますか

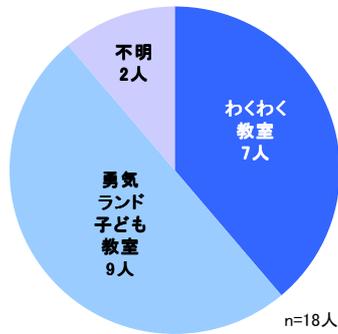


別のテーマとして、山菜等を採ったり料理を作る教室については、参加意向がやや低く、反対に参加したくないとする回答が3割以上あった。

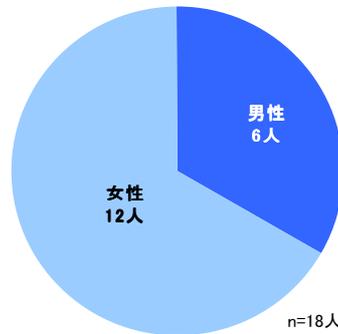
同じく別のテーマの森、木の話やおもちゃを作る教室については、魚を見たり、料理をつくる教室よりも参加意向が高い結果となっている。

【大人アンケート】

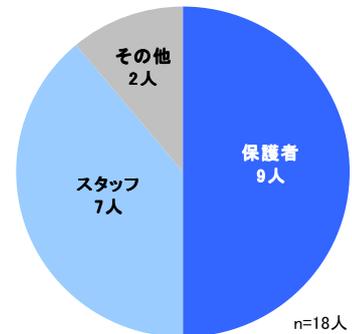
■教室名



■性別

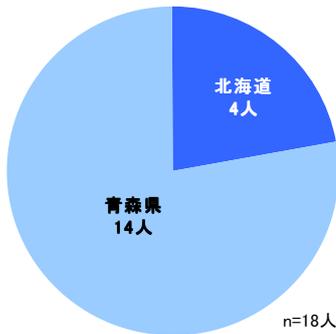


■参加者別

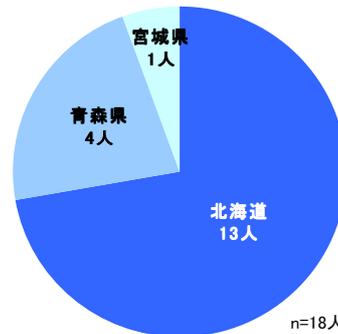


今回のアンケートは、大人の方にも第1回の児童アンケートと同じ設問に回答していただきました。

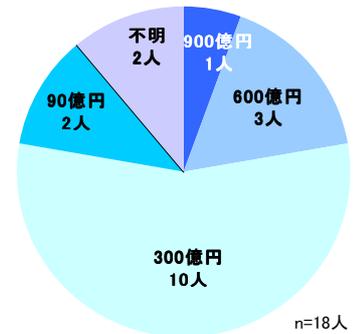
■日本でホタテ生産量一位は



■日本でホタテ生産量二位は

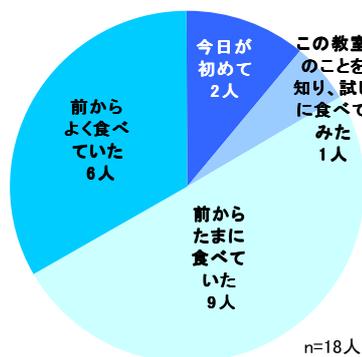


■青森県産のホタテの販売額は

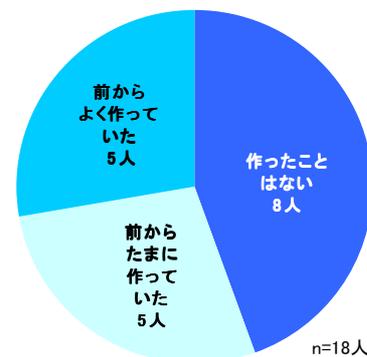


正解はホタテ生産量一位が北海道、二位は青森県でしたが、アンケートではその反対の回答が多かったです。また、販売額については、正解は90億円ですが、300億円の回答が一番多かったです。

■「みそ貝焼き」を食べたことはありますか



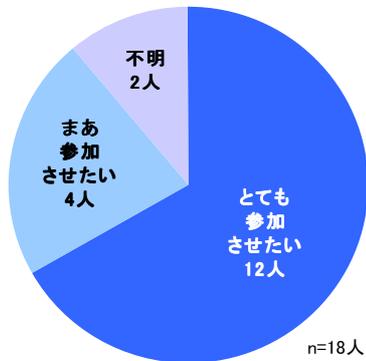
■「みそ貝焼き」を作ったことはありますか



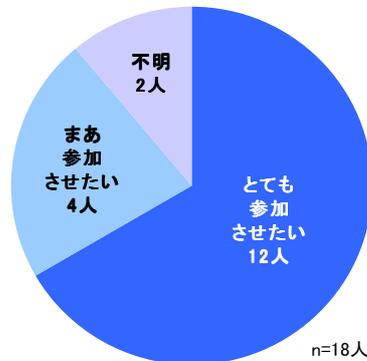
「みそ貝焼き」は、参加者のほとんどが食べたことがあるという回答でした。一方、「みそ貝焼き」を作ったことがあるかという設問では、作ったことがあるという人がやや多かったものの、作ったことがないという人が8人いました。

■ 以下のような教室に、お子さんを参加させたいと思いますか。

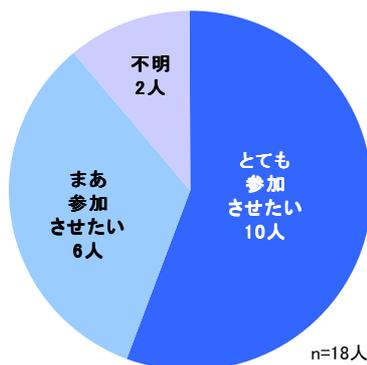
◆ 今回のような「海とホタテ教室」



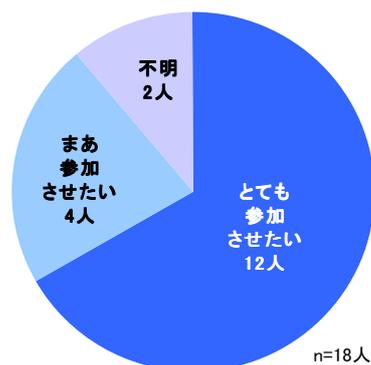
◆ ホタテ以外の魚などの漁業についての教室



◆ キノコ、山菜、長いも、そば、にんにく等の農業のことや料理などの教室



◆ 森や木、林業のことや木のおもちゃづくりなどの教室



今回の「海とホタテ教室」以外でも、子どもに参加させたい教室をたずねたところ、ほぼ同じ回答であり、参加させたいという意向が大変高かった。子どもたちの回答には教室の内容によって参加したくないという回答もあったものの、大人の回答には見られなかったことから、このような体験型の教室に対しては、教育の一環として評価されているのではないかと思う。

感想 & 意見

■ 第1回(10月27日)についての感想、意見

- 参加したあと、子どもがとても喜んで帰ってきたし、勉強したことを覚えて、私に教えてくれたので驚いた。
- 子どものみが参加した。しおり作りが楽しかったようです。
- 身近な海の生き物を知ることができて楽しかったです。
- 川内に行って良く理解できた。
- 時期を早くして海岸、海辺に入ってやれば、なお効果的
- ホタテの料理を作るだけではなく、生態など知識についても学ぶ機会は良いと思う。



■第2回(11月22日)についての感想、意見

- 地域で特に地元の物や行事、風習について学べるのは良いことだと思う。できれば、子どもが一人のできるものがあればもっと良いと思う。
- 楽しみにしてきました。お腹いっぱい食べたかったので、また家で作ってみます。
- 料理を作ったり、食べる時間をもう少しゆったりしたほうが良かったと感じる(座って食べさせたかった)。
- 子ども達に体験させることは良いことだと思います。
- 自分で作るみそ貝焼きは良い経験になったと思います。また、機会がありましたら参加させたいと思っています。
- 色々なみそ貝焼きがあるのにビックリしました。おいしかったです。
- 楽しかったし、またやりたいです。
- 多人数での学習となりましたが、参加人数の考慮が必要。
- この人数では、調理は難しいと思う。できる範囲でよいと思う。
- 親子でみそ貝焼きを作れて良かったです。家庭でも一緒に作ってみたいと思いました。楽しかったです。
- 実際に作って食べて、とても楽しかったです。
- 自分たちで作る以外に名人が作るみそ貝焼きも食べられてよかったです。
- 説明の話が多すぎて、子ども達があきてしまっていた。内容はとてもよかったですと思いました。みそ貝焼きはとてもおいしかったです。



■第1回、2回を通しての感想・意見

- とても良い機会、企画ですが、地元の受け入れる側がどこまで理解し、行動できるかが大事、誰かがやるだろう的な思いがあると成功しませんね。こういう企画はとにかく地元のスタッフ自身がどこまで理解しているか、何のためにという思いが左右します。
- 子どもと一緒に参加し、とても楽しく過ごすことができました。また、ぜひこういう機会を作ってほしいと思います。



■今後、放課後子ども教室で取りあげたらよいと思うテーマ、内容

- 「下北の森、下北の海探検」、春夏秋冬を通し、自分の生まれ育ったところを身近に知ることが生きることにつながっていく。
- 体験学習、ふれあい(自然、海、山、川、畑)で、もっと自分の住む町を理解して大切にすることを意識させたい。
- エコへの取組など、地球規模の視点で子ども達が楽しく興味をもてることなど。
- 自衛隊関係があればおもしろいと思う。
- 施設を利用したの体育
- 観光関係を進めたい。
- 商業関係。お金の流れなど、実際の暮らしに関係することも面白いのでは？
- 体験型のもの
- 職業見学等が楽しそう。農業、工芸、大工さん等
- むつ市内の名所などの見学



(2) 子ども、保護者の地域産業への興味・理解促進、教室プログラムへの意向開拓

1) 地域産業への興味・理解促進

◆第一回「海とホタテ教室（見て学ぶ教室）」終了時の子ども対象アンケートにおいて青森県のホタテやホタテ料理、漁業などについても尋ね、その結果を活かしながら、地域産業や水産資源等への興味や理解を促すことができた。

○青森県のホタテ漁獲高が全国「2位」だということを多くの子どもが改めて知った。

・アンケートで、「全国2位は？」の問に対して青森県と回答したのは18.2%であった（1位が青森県とした回答が57.6%）。→「2位」であることを伝えた。

○「漁協」という言葉とその役割などを、多くの子どもが初めて知った。

・アンケートで、「『漁協』という言葉を知ることがなかった（今日初めて聞いた）」との回答が54.5%。

○厳しい地域条件ゆえ下北発祥と言われる料理であるホタテ「みそ貝焼き」について認知や興味を促した。

・アンケートで、「食べたことがあるホタテ料理」として、「みそ貝焼き」との回答が51.5%。また、「今日（家に帰って）食べたいと思うホタテ料理」の第一位として24.2%が「みそ貝焼き」と答えもっとも多かった。→第二回教室で「みそ貝焼き」を学び作ることを知らせた。

2) 地域産業界の協力による放課後子ども教室プログラムへの意向開拓

◆第二回「海とホタテ教室（料理を学んで食べる教室）」終了時に子どもと大人対象のアンケートを実施して、産業資源を活用した放課後子ども教室プログラムへの参加意向を尋ねたところ、次のように参加意向を掘り起こし把握することができた。

第二回終了時アンケートより

*上段：子ども(参加したい)：有効回答34人、下段：大人(参加させたい)：有効回答18人

下の教室に参加したいか？		とても参加したい	まあまあ参加したい	あまり参加したくない	参加したくない
「海とホタテ教室」に“また”	子ども	55.9%	35.3%	5.9%	0%
	大人	66.7%	22.2%	0%	0%
魚を見たり聞いたり料理を作る教室 〈テーマを変え漁協等の参画を想定〉	子ども	79.4%	5.9%	11.8%	0%
	大人	66.7%	22.2%	0%	0%
山菜、長芋、そば、ニンニクなどを見たり採ったり料理を作る教室 〈農協等の参画を想定〉	子ども	53.0%	11.8%	29.4%	2.9%
	大人	55.6%	33.3%	0%	0%
森や木のことを聞いたり、木のおもちゃを作る教室 〈林業、木工業等の参画を想定〉	子ども	76.5%	14.7%	0%	2.9%
	大人	66.7%	22.2%	0%	0%

Ⅱ. 森と木の特性や魅力を知る「とくしま放課後森と木の教室」プログラムの実施

1. 徳島市での地域産業資源活用プログラム実施の背景

(1) 地域産業資源活用可能性

◆徳島市は、市街地近郊に大規模な木材団地を有し、また、鏡台や仏壇など木製品の日本有数の産地である。このように、山と木に関わる川上から川下までの産業、そして消費地が集積しているのが徳島市の特徴であり、環境教育とも関連付けた山の幸（森林環境、木材資源、葉っぱ資源ほか）、産業資源活用・連携による放課後子ども教室プログラム充実のモデルケースを実施可能と考える。

(2) 放課後子ども教室の実施状況（平成20年5月現在）

①放課後子ども教室実施校

- ・6教室／31校(全校実施には到っていない)
- ＊19年度開設5教室、毎年度5教室ずつ開設予定

②放課後子ども教室実施頻度、回数

- ・週2回、年間130日程度(長期休暇中もあり)が一般的

③コーディネーターの確保状況

- ・2名／確保予定2名(確保できている)

④教室やプログラムのタイプ

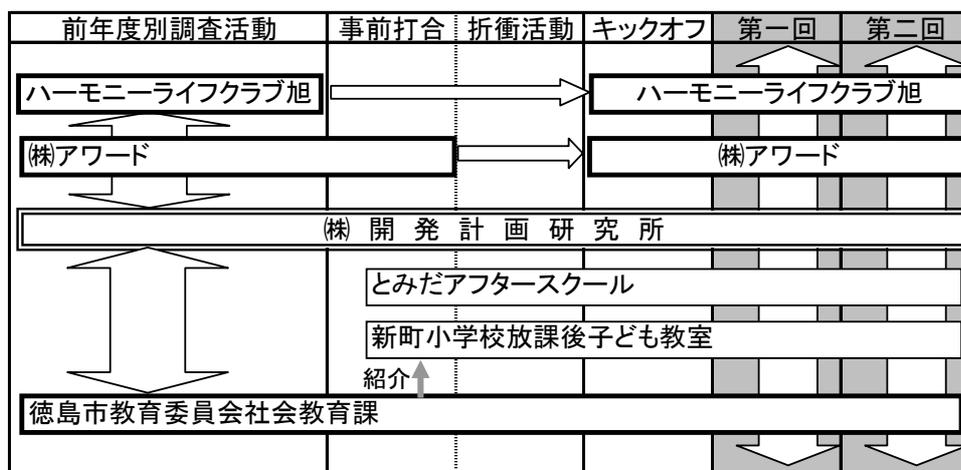
- ・自由な遊び(オセロ、将棋、バドミントン等)
- ・自主的な学習(絵画、読書等)
- ・体験活動(伝統芸能、伝承遊び等)
- ・地域活動(地域行事等への参加)
- ＊J2サッカーチーム：徳島ヴォルティスの選手による放課後サッカー教室実施例あり

2. 徳島市での地域産業資源活用プログラムの実施

(1) 実施に到る折衝、準備

1) 協力者の開拓、実施に到るネットワーク形成

- ◆当社が経済産業省、農林水産省の地域振興に関わる調査でお世話になっている産業界とのネットワークをもとに「森と木の教室」の骨格を組み立てた上で、前年度の貴省委託「総合的な放課後対策調査」で放課後子ども教室実施やコーディネーターの活動状況などについてヒアリング調査に協力いただいた徳島市教育委員会社会教育課に市内の2つの放課後子ども教室を紹介いただいてプログラムの実施に到った。
- ◆とみだアフタースクールは徳島市立富田小学校内（徳島駅より1km強）、新町小学校放課後子ども教室は新町小学校内（徳島県庁より1km弱）に開設されている。ともに、徳島市の中心市街地に位置する。
- ◆ハーモニーライフクラブ旭（代表：田上幸輝氏）は、徳島市にも流れ込む勝浦川水源が位置する上勝町内の最上流の旭地区で山の楽校自然の宿あさひの管理運営を行っている地区住民有志による任意組織である。農林水産省の広域連携共生・対流事業の採択を受けて、十代世代を対象に富山県氷見市、広島市と連携して山・海・都市の体験・交流事業に取り組むほか、日常的に森林、林業や農山村生活等の体験学習プログラムを企画し実施している。
- ◆(株)アワード（社長：黒河昭一氏）は、徳島市他の県内自治体等が出資した第三セクターのデザイン会社である。主要業務は県産材等を使用した家具などのデザインであるが、黒河社長は大学でデザインの講座を担当し、デザインの意味や手法、木を活かしたイスなどのモノづくりなどについて学生や社会人などに教えている。



2) 折衝、準備の経緯

- ◆徳島市の2ヶ所の放課後子ども教室で二回ずつの「森と木の教室」を実施したが、その実施に到る経緯は以下の通りである。
- ◆当社が放課後子ども教室への産業界の協力を呼びかけ、ある程度のプログラム原案ができあがった段階で徳島市に打診をし、2つの放課後子ども教室での実施が決まった。
- ◆徳島市の放課後子ども教室の実施方針は、地域の方々が「無理なくできる範囲」で実施していただく、「学校外へは出ない」ということであり、当社としても教室関係者には極力負担にならないよう、教室内で実施できるプログラムを産業界の協力者とともに組み立てた。
- ◆ハーモニーライフクラブ旭と㈱アワードの協力による放課後子ども教室プログラム実施ということで、源流の町上勝の自然や森、木について伝える、そして、木のモノづくり体験をしながらデザインへの興味も掘り起こすという基本的な内容は早い段階に決まった。

月日	活動	折衝先、参加者等
05.22	徳島市に事業受入依頼	徳島市教育委員会社会教育課
08.21	徳島市事前打合せ	徳島市教育委員会、市放課後コーディネーター、 ㈱アワード
09.22	徳島市キックオフミーティング	域外アドバイザー、徳島市教育委員会、市放課後 コーディネーター、とみだアフタースクール、新 町小学校放課後子ども教室、㈱アワード、ハーモ ニーライフクラブ旭
11.13 14	徳島市 とみだ第一回教室開催 徳島市 新町小第一回教室開催	とみだアフタースクールにて 新町小学校放課後子ども教室にて
12.04 05	徳島市 とみだ第二回教室開催 徳島市 新町小第二回教室開催	とみだアフタースクールにて 新町小学校放課後子ども教室にて

3) 実施に到る折衝、準備のポイント

- ◆細かな折衝や準備、節々で提起された実施上の課題、その解決や対応は以下のような経緯で行った。

①徳島市より市内放課後子ども教室に当プログラムの実施受入を打診

<平成 20 年 5 月 22 日：徳島市教育委員会社会教育課が対応>

- ・当社でネットワークのあった徳島市内木工関連企業・団体、上勝町内住民グループとともに、徳島市での「森と木の教室」を企画し、前年度の放課後コーディネーター調査でヒアリングに伺った徳島市教委社会教育課に実施を打診した。
- ・「業界側からの出前教室というスタイルなら」という条件で、市内 2 教室での受入を了承いただいた。

②市教育委員会担当者、受入放課後子ども教室スタッフとの事前確認・調整打合せ

<平成 20 年 8 月 21 日：徳島市教育委員会、市放課後教室コーディネーター、2 教室スタッフ、開発計画研究所>

- ・実施方針に概ねの合意。
- ・キックオフミーティングは 9 月 22 日開催に決定。
- ・徳島市の場合は、放課後子ども教室の活動で、学校外に出ることはできない。参加者に費用負担はさせられない。子ども達の行事保険は不要。
- ・次年度以降にも産業界協力の放課後子ども教室を継続してほしいが、市や教室から費用を負担することは難しい。産業界の提供による冠「出前教室」という形をお願いすることになると思う。産業界にもメリットを感じてもらうには新聞等で記事掲載されれば多少は PR 効果を認識してもらえらると思うので、市の記者クラブを通じて取材・記事掲載等の働きかけをする。
- ・徳島市の木工業の発祥は、市内福島町にあった「阿波水軍」の造船所で、船大工の技術がベースになっている。上流では木材がとれ、加工に船大工技術というように、木と関わる産業の蓄積があるのであるが、今は、子ども達や親、先生方も徳島市と木の産業というのはあまり結びつきが意識されておらず、授業でも積極的に取り上げられていない。そういう意味で、この放課後教室には期待している。
- ・第一回教室と第二回教室の開催日程については改めて調整する

③第一回教室用教材提供打診

<平成 20 年 8 月 22 日：千年の森ふれあい館、ハーモニーライフクラブ旭、開発計画研究所>

- ・第一回「森と木の教室」で上映する DVD 教材提供について打診し、協力いただける方向で了解を得た。

④第一回教室用教材手配

<平成 20 年 9 月 3 日：千年の森ふれあい館に電話で依頼>

- ・第一回「森と木の教室」で上映する教材として、上勝町の原生林や森を守る取り組みの DVD、草刈り作業などの DVD の提供を得ることとした。

⑤第一回教室用教材準備

＜平成 20 年 9 月 10 日＞

- ・ 第一回「森と木の教室」で上映する DVD の内容を確認した。

⑥キックオフミーティング：主要関係者が会し、本番に向け本格的に活動開始

＜平成 20 年 9 月 22 日：域外アドバイザー、徳島市教育委員会、市放課後コーディネーター、とみだアフタースクール、新町小学校放課後子ども教室、(株)アワード、ハーモニーライフクラブ旭、開発計画研究所＞

- ・ [域外アドバイザーより]米国ではかなり早くから「子どもの放課後が危ない」と、州政府や企業が活動している。早晩日本も同様の状況になると思い、放課後プログラムのコーディネーターとして活動している。世田谷で地区の大工さんの協力で実施した「家づくりプログラム」など参考にしてもらえと思う。
- ・ [域外アドバイザーより]PTA 活動を行う中で学校、地域と関わるようになり、横浜で企画、実施した「だがしや学校」が評価を得て、現在はより広く地域と学校・放課後をつなぐコーディネート、サポートを行っている。「放課後」は、子ども達の、家庭とも学校とも違う三つ目の顔が見られる場であり、あまり型にはめずに、自由な発想や活動を大切にすべきと考える。
- ・ 廃校になった学校を活用して、山で楽しみ学んでもらう楽校を運営している。私も今の子どもが気になっていて、自然と人との関わりの中で、感性を磨き、生きる上で大切なものに気づいてもらうための受け皿づくりを行いたいと思っている。
- ・ 20 年前に、徳島市の公募に応募して 133 人中一人選ばれてデザイン会社の社長として仕事をしている。木工業の活性化などを手伝いながら、子ども達にも何かを伝えなければと思っている。スピーチなどで人に対して自分を表現する機会を与えてあげたいし、モノづくりを通して、五感と体感、心技体のバランスのとれた知識・能力、これをもとにした創造力などをつけられるような手伝いができればと思っている。
- ・ 市で社会教育を担当しているが、これまでの社会教育・生涯学習は、個人の要請に対応する形で進められてきたが、これからは「社会の需要・要請」という点も重視される。現在の社会の要請の一つが「子育て支援」であり、放課後子ども教室はその重要な役割を担っている。地域の方々が尽力して下さっているが、一層の人的資源の活用や教育資源の開拓・活用が必要であり、今回のモデル事業を機会に、産業界の協力も得られるようになればよいと考える。
- ・ 他の行事とのスケジュール調整も必要なので、教室開催は二回とし、第一回はとみだアフタースクール 11 月 13 日、新町小教室 14 日、第二回は 12 月 4 日、5 日開催とする。
- ・ ビデオ上映を行うのであれば、1 教室は設備がないので調達する必要がある（→市教育委員会で用意いただくようお願いした）。

- ・貯金箱づくりについて、木工教室などで子ども達も釘打ちを経験しているが、材が薄い場合は難しいかもしれない。大人の補助が必要であろう。
- ・第二回の「作る教室」の際、上勝町から手伝いに出向くのは難しそうなので、教室スタッフに早めに教室に来てもらって、作り方を見てもらい、こどもたちの手助けをお願いしたい。
- ・あまり準備しすぎない、手を出しすぎないということも大切である。
- ・「森と木の教室」であれば、本来は森や、木を伐り作る現場などを見せて体験してもらいたい。放課後子ども教室ゆえの制約とはいえ、学校から出られないのはプログラムを組み立て、実施する上で支障になる。
- ・本来はそうあるべきとは思いますが、安全管理などの面から現状では難しい。子ども達もスタッフ等大人達も少しずつ慣れていきながら、学校外でも活動できるようになればよいと思う。
- ・次年度以降も継続し、他の教室でも産業界の協力によるプログラムを実施すると企業や団体の理解と協力・支援、提供を得る必要がある。
- ・[域外アドバイザーより]今年度は持ち込み企画の「出前教室」ということであるが、頼まれたからやるという「受け身」では続かない。次は別なおもちゃを作ってみたい、「山の楽校」で森と木を実際に体験したいというように、思いや活動を拓いていく必要がある。横浜では最初にキットの木工教室をやったが。その後は、大工さんから木っ端をもらってきて好きなものを作るようになっている。
- ・[域外アドバイザーより]次の教室は誰が担って継続していくのか、コーディネーター、行政ほか、それぞれがどのような役割を担う、また、どうまわりに呼びかけていくのかなど、普段からネットワークを作り、拓げ、人材や放課後充実のための資源をどう蓄積して活用していくのかを、多少欲張って考えていくことが重要だと思う。

⑦募集チラシ作成、配布

<平成20年10月8日：開発計画研究所より2教室へ>

- ・放課後子ども教室で子ども達に配布し「森と木の教室」への参加を呼びかけるための案内・募集チラシを作成し、教室で配布した。

⑧第一回教室用教材準備

<平成20年10月9日>

- ・第一回「森と木の教室」で上映するDVDの編集作業を行った。

⑨プレスリリース：マスコミ各社へ教室開催情報提供、取材依頼

<平成20年10月14日：徳島市社会教育課より徳島市役所記者クラブへ>

- ・報道各社向け「取材のお願い」：『とくしま放課後森と木の教室』プログラムの実施についてを、徳島市教委より記者クラブに情報提供していただいた。

⑩第一回教室に向け教材準備、流れチェック

<平成 20 年 10 月 29 日、30 日：ハーモニーライフクラブ旭、(株)アワード、開発計画研究所>
・「森と木」などの DVD 内容・流れチェック、説明シナリオ等について講師と進行打合せ

⑪参加人数の一次把握

<平成 20 年 11 月 4 日：2 教室より開発計画研究所へ>

⑫第二回教室に向け工作教材等の準備手配

<平成 20 年 11 月 4 日：開発計画研究所よりハーモニーライフクラブ旭、上勝町有志へ>

⑬第一回「とくしま放課後森と木の教室」開催

<平成 20 年 11 月 13 日：徳島市立富田小学校 とみだアフタースクールにて>

<平成 20 年 11 月 14 日：徳島市立新町富田小学校 新町小学校放課後子ども教室にて>

* 56 頁～の実施結果参照

⑭新聞記事掲載

<平成 20 年 11 月 15 日>

・徳島新聞紙上に、第一回の開催状況と第二回案内が簡潔な記事で紹介された

* 90 頁の掲載記事参照

⑮第二回教室に向け教材準備、流れチェック

<平成 20 年 11 月 26 日：ハーモニーライフクラブ旭、(株)アワード、開発計画研究所>

・貯金箱、竹細工等の工作教材チェック、説明シナリオ等について講師と進行打合せ

⑯第二回「とくしま放課後森と木の教室」開催

<平成 20 年 12 月 4 日：徳島市立富田小学校 とみだアフタースクールにて>

<平成 20 年 12 月 5 日：徳島市立新町富田小学校 新町小学校放課後子ども教室にて>

* 72 頁～の実施結果参照

⑰新聞記事掲載

<平成 20 年 12 月 14 日>

・徳島新聞紙上に、第二回の開催状況（写真入り）、第一回の概要、事業全体の趣旨などの記事が紹介された

* 91 頁の掲載記事参照

(2) 教室内外への広報・PR

1) 教室の子ども達と保護者への呼びかけ

◆関係者折衝でほぼ内容が固まったあと、第一回教室開催の一ヶ月以上前の10月8日に、教室スタッフから子どもたちに以下の案内・募集チラシを配布してもらった。

①とみだアフタースクール用募集チラシ

「ほうかご森と木の教室」 のおしらせ

「とみだアフタースクール」では、林業や木材関連の産業界の方たちに協力いただいて、「ほうかご森と木の教室」を開催します。

11月13日(木)と12月4日(木)の2回の教室を予定しています。

★二回とも、アフタースクールの教室内で実施します。
★参加費は無料です。★保護者の方も参加可能です(子ども達の手助けをお願いします)

できるだけ多くの方に参加してほしいので、おうちのかたと相談してみてください。

参加できるかどうかを、「参加について」の用紙に記入して教室の先生に提出してください。



共に生きる人と森

とくしまの木をいかすために、木材の藍染めなども研究されています

「とくしま とみだ ほうかご森と木の教室」ごあんない

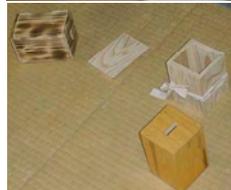
第1回教室：「森と木や、木の仕事を学ぼう」

★日にち 11月13日(木)
★時間 午後2時30分～午後4時30分
★内容

- ・森と木の大切さや、森を守り木を育てる活動などについて、ビデオを見ながら上勝町での話しなどを聞きます。
- ・とくしまのスギで作った大きな積み木で遊んでみたり、竹で作ったかわいいカニや、スギの貯金箱などを見たりさわったりします。
- ・デザイナーの先生から、木を使ったすてきな暮らしなどについて話を聞きます。



この地に住む人々は、遠が昔からその恩恵を受け、森の自然と共に暮らしを営んで来ました。



第2回教室：「木でおもちゃや道具を作ろう」

★日にち 12月4日(木)
★時間 午後2時30分～午後4時30分
★内容

- ・釘うちの練習をしたあと、スギでできた貯金箱を組み立てて、絵をかいいたり、葉っぱや小枝でかざってマイ貯金箱を作ります。
- ・竹でできているけど、本物のようで、とてもかわいいカニなどの生きものを組み立てます。
- ・二回の教室の感想などを話してもらいます。

<保護者の方へ>★本事業は、文部科学省のモデル事業として、徳島県木竹工業協同組合連合会、徳島県木材団地協同組合連合会、ハーモニーライフクラブ旭、(株)アワード、大利木材(株)、徳島市教育委員会等の協力を得て、(株)開発計画研究所が実施するものです。★内容につきましては、一部変更の可能性もありますのでご了承下さい。★お問い合わせは、アフタースクールにお願いします。必要に応じて(株)開発計画研究所で対応させていただきます。

第一回「とくしま とみだ 放課後森と木の教室」【見て聞いて、さわる教室】

平成20年11月13日(木):とみだアフタースクール 登録児童数 33名

時刻	活動内容
14:00	集合 子ども教室に児童達が集まり始める
第一回教室「森と木、木のしごとを学ぼう」	
14:30	①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などを説明
14:35	②「共に生きる人と森(上勝町)」ビデオ上映(6分間) [内容] 高丸山とは 森と木の大切さ、すばらしさ 森をまもるために * 低学年でも興味を持てるように説明を加えながら上映
14:45	③「木を育てるために[高丸山 合同草刈り]」ビデオ上映(8分間) [内容] ボランティアによる幼木を守るための草刈り作業 草刈りなど木を育てるための作業の大切さ * 低学年でも興味を持てるように説明を加えながら上映
14:55	④山の楽校 田上校長先生のおはなし「人と森のかかわり」 [内容] 人は森なしでは生きられない 森のめぐみ(木や木の実だけでなく、人の体にも心にもいい成分を出してくれる) 森を活かし森とともに生きる
15:25	休 憩
15:30	⑤木のおもちゃや道具にふれてみよう * 積み木 からくりおもちゃ 竹細工いきもの(カニ、昆虫等) 貯金箱 イス など
15:45	⑥デザイナー 黒河社長のおはなし「くらしに木をいかす」 [内容] とくしまスギで積み木をつくる 積み木のデザイン 積み木であそぶ 積み木を修理する
16:15	⑧まとめ(感想)、第二回のあんない(何を作ってみたいかな?)、お礼
16:30	第一回教室「森と木、木のしごとを学ぼう」終了

第二回「とくしま とみだ 放課後森と木の教室」【作る教室】

平成20年12月4日(木):とみだアフタースクール 登録児童数 33名

時刻	活動内容
14:00	集合 子ども教室に児童達が集まり始める
第二回「木でおもちゃや道具を作ろう」	
14:30	①「本日の予定」、「気をつけよう」などを説明
14:40	②スギの貯金箱をつくる [内容] 貯金箱:キットを、釘を打って組み立てて、絵や木の葉などでかざる
15:20	休 憩
15:30	③竹細工のいきもの(カニなど)をつくる [内容] キットを組み立てて、自分なりにしあげる
16:10	⑧まとめ(感想)、お礼
16:30	第二回教室「木でおもちゃや道具を作ろう」終了

「とくしま とみだ ほうかご森と木の教室」 への参加について

- ★参加できる人もできない人も、この用紙を教室の先生まで提出して下さい。
- ★できましたら、10月22日(水)までに提出をお願いします。
- ★お子さん一人につき、一枚ずつ提出して下さい。
- ★できましたら、二回とも参加をお願いします。

教室名	とみだアフタースクール		
お名前		学 年	年 生
参加できるかどうか			
第1回(11月13日) 「見て聞いて、 さわる教室」教室	1. 参加できる → 2. 参加できない 3. 今はわからない *いつぐらいならわかりますか？ ()	*保護者の方の参加は？ 1. 参加 2. 不参加 ()名	
第2回(12月4日) 「作る教室」教室	1. 参加できる → 2. 参加できない 3. 今はわからない *いつぐらいならわかりますか？ ()	*保護者の方の参加は？ 1. 参加 2. 不参加 ()名	

その他	* 教室に参加する際に気になることなどがありましたら、ご記入下さい。
-----	------------------------------------

②新町小学校放課後子ども教室用募集チラシ

「ほうかご森と木の教室」 のおしらせ

「新町小学校放課後子ども教室」では、林業や木材関連の業界の方たちに協力いただいて、「ほうかご森と木の教室」を開催します。
11月14日(金)と12月5日(金)の2回の教室を予定しています。

★二回とも、放課後子ども教室内で実施します。
★参加費は無料です。★保護者の方も参加可能です(子ども達の手助けをお願いします)
できるだけ多くの方に参加してほしいので、おうちのかたと相談してみてください。
参加できるかどうかを、「参加について」の用紙に記入して教室の先生に提出してください。



「とくしま 新町小 ほうかご森と木の教室」ご案内

第1回教室：「森と木や、木の仕事を学ぼう」

★日にち 11月14日(金)

★時間 午後2時30分～午後4時30分

★内容

- ・森と木の大切さや、森を守り木を育てる活動などについて、ビデオを見ながら上勝町での話しなどを聞きます。
- ・とくしまの杉で作った大きな積み木で遊んでみたり、竹で作ったかわいいカニや、杉の貯金箱などを見たりさわったりします。
- ・デザイナーの先生から、木を使ったすてきな暮らしなどについて話を聞きます。



第2回教室：「木でおもちゃや道具を作ろう」

★日にち 12月5日(金)

★時間 午後2時30分～午後4時30分

★内容

- ・釘うちの練習をしたあと、杉でできた貯金箱を組み立てて、絵をかいたり、葉っぱや小枝でかざってマイ貯金箱を作ります。
- ・竹でできているけど、本物のようで、とてもかわいいカニなどの生きものを組み立てます。
- ・二回の教室の感想などを話してもらいます。

<保護者の方へ> ★本事業は、文部科学省のモデル事業として、徳島県木竹工業協同組合連合会、徳島県木材団地協同組合連合会、ハーモニーライフクラブ旭、(株)アワード、大利木材(株)、徳島市教育委員会等の協力を得て、(株)開発計画研究所が実施するものです。★内容につきましては、一部変更の可能性もありますのでご了承下さい。★お問い合わせは、徳島市教委社会教育課にお願いします。必要に応じて(株)開発計画研究所で対応させていただきます。

第一回「とくしま 新町小 放課後森と木の教室」【見て聞いて、さわる教室】

平成20年11月14日(金):新町小学校放課後子ども教室 登録児童数 29名

時刻	活動内容
14:00	集合 子ども教室に児童達が集まり始める
第一回教室「森と木、木のしごとを学ぼう」	
14:30	①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などを説明
14:35	②「共に生きる人と森(上勝町)」ビデオ上映(6分間) [内容] 高丸山とは 森と木の大切さ、すばらしさ 森をまもるために * 低学年でも興味を持てるように説明を加えながら上映
14:45	③「木を育てるために[高丸山 合同草刈り]」ビデオ上映(8分間) [内容] ボランティアによる幼木を守るための草刈り作業 草刈りなど木を育てるための作業の大切さ * 低学年でも興味を持てるように説明を加えながら上映
14:55	④山の楽校 田上校長先生のおはなし「人と森のかかわり」 [内容] 人は森なしでは生きられない 森のめぐみ(木や木の実だけでなく、人の体にも心にもいい成分を出してくれる) 森を活かし森とともに生きる
15:25	休 憩
15:30	⑤木のおもちゃや道具にふれてみよう * 積み木 からくりおもちゃ 竹細工いきもの(カニ、昆虫等) 貯金箱 イス など
15:45	⑥デザイナー 黒河社長のおはなし「くらしに木をいかす」 [内容] とくしまスギで積み木をつくる 積み木のデザイン 積み木であそぶ 積み木を修理する
16:15	⑧まとめ(感想)、第二回のあんなない(何を作ってみたいかな?)、お礼
16:30	第一回教室「森と木、木のしごとを学ぼう」終了

第二回「とくしま 新町小 放課後森と木の教室」【作る教室】

平成20年12月5日(金):新町小学校放課後子ども教室 登録児童数 29名

時刻	活動内容
14:00	集合 子ども教室に児童達が集まり始める
第二回「木でおもちゃや道具を作ろう」	
14:30	①「本日の予定」、「気をつけよう」などを説明
14:40	②スギの貯金箱をつくる [内容] 貯金箱:キットを、釘を打って組み立てて、絵や木の葉などでかざる
15:20	休 憩
15:30	③竹細工のいきもの(カニなど)をつくる [内容] キットを組み立てて、自分なりにしあげる
16:10	⑧まとめ(感想)、お礼
16:30	第二回教室「木でおもちゃや道具を作ろう」終了

「とくしま 新町小 ほうかご森と木の教室」 への参加について

- ★参加できる人もできない人も、この用紙を教室の先生まで提出して下さい。
- ★できましたら、10月22日(水)までに提出をお願いします。
- ★お子さん一人につき、一枚ずつ提出して下さい。
- ★できましたら、二回とも参加をお願いします。

教室名	新町小学校放課後子ども教室		
お名前		学 年	年 生
参加できるかどうか			
第1回(11月14日) 「見て聞いて、 さわる教室」教室	1. 参加できる → 2. 参加できない 3. 今はわからない *いつぐらいならわかりますか？ ()	*保護者の方の参加は？ 1. 参加 2. 不参加 ()名	
第2回(12月5日) 「作る教室」教室	1. 参加できる → 2. 参加できない 3. 今はわからない *いつぐらいならわかりますか？ ()	*保護者の方の参加は？ 1. 参加 2. 不参加 ()名	

その他	*教室に参加する際に気になることなどがありましたら、ご記入下さい。
-----	-----------------------------------

2) 地域への呼びかけ（プレスリリース資料）

- ◆ 第一回教室開催の約一ヶ月前に以下のような資料を作成し、徳島市教育委員会より徳島市役所記者クラブでプレス発表をしていただいた。

平成20年10月16日

報道関係者のみなさま

(株)開発計画研究所

電話 03-3811-5119 FAX03-3811-5157

文部科学省委託による「とくしま放課後森と木の教室」プログラムの実施について (取材のお願い)

私どもは民間の調査研究会社ですが、今年度文部科学省委託事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」の「放課後活動支援モデル事業」として、徳島市内の二つの放課後子ども教室の参加を得て、「とくしま放課後森と木の教室」プログラムを実施致します。

「放課後活動支援モデル事業」は、文部科学省が、「地方公共団体と連携の上、放課後子どもプランの取組のモデルとなるような、先進的・効果的な取組(モデルプラン)」を全国から募集し、モデル性の高い取組に対して、文部科学省がその実施を委託するものです。

(株)開発計画研究所では、徳島市教育委員会、徳島県木竹工業協同組合連合会、徳島県木材団地協同組合連合会、ハーモニーライフクラブ旭、(株)アワード、大利木材(株)等の協力を得て、「とくしま放課後森と木の教室」プログラムの実施を文部科学省に企画提案し、モデル事業として採択されました。

事業の実施概要は以下のようになっておりますので、取材や記事紹介などを行なっていただければ幸いに存じ、お願いを申し上げます。

<文部科学省委託「とくしま放課後森と木の教室」実施概要>

1. 事業のねらい

- ① 林業、木材関連産業関係者等の協力を得て、徳島市内の放課後子ども教室の魅力アップにつながるプログラムを実施する
- ② 徳島市の地域産業資源であるスギ等木製の玩具や道具を取り上げることによって、放課後子ども教室の子ども達が楽しみながら、森林や木と人との関わり、木を活かした暮らし方、木材関連産業などについて興味を持って学べる教室を実施する。
- ③ 産業関係者にとっても、林業や木材関連産業とその製品、森林・山村体験等のPRにつながる教室内容とする。
- ④ 次年度以降も、両教室及び市内の他の教室で「森と木の教室」を実施すること、また、今

回協力いただいた産業関係者に限らず、他の業種、業界等の参画・協力も得て放課後子ども教室プログラムが実施されることをめざす。

- ⑤他地域においても、産業関係者の協力を得て、放課後子ども教室とそのプログラムを魅力的なものにすることを促すモデルケースとして示すことができるように、徳島市で取組を実施しその取組経過及び取組結果、成果と課題をとりまとめ、全国に紹介する。

2. 「とくしま放課後森と木の教室」プログラムの実施概要

1) 「とくしま とみだ 放課後森と木の教室」

★会場：とみだアフタースクール(徳島市立富田小学校内)

①第1回教室：「森と木や、木の仕事を学ぼう」

★日時：平成20年11月13日(木) 午後2時30分～午後4時30分

②第2回教室：「木でおもちゃや道具を作ろう」

★日時：平成20年12月4日(木) 午後2時30分～午後4時30分

2) 「とくしま 新町小 放課後森と木の教室」

★会場：新町小学校放課後子ども教室(徳島市立新町小学校内)

①第1回教室：「森と木や、木の仕事を学ぼう」

★日時：平成20年11月14日(金) 午後2時30分～午後4時30分

②第2回教室：「木でおもちゃや道具を作ろう」

★日時：平成20年12月5日(金) 午後2時30分～午後4時30分

3. 事業委託

文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課 放課後子どもプラン連携推進室

4. 事業受託、実施

株式会社 開発計画研究所(東京都文京区小石川1-2-4)

5. 連携・協力

徳島市教育委員会

徳島県木竹工業協同組合連合会

徳島県木材団地協同組合連合会

ハーモニーライフクラブ旭

株式会社 アワード

<お問い合わせ>

(株)開発計画研究所 当事業担当

〒1120002 東京都文京区小石川1-2-4 電話 03-3811-5119 FAX03-3811-5157

(3) 実施当日に向け役割、流れの確認

1) 第一回「とくしま放課後森と木の教室」

- ◆第一回「とくしま放課後森と木の教室」の実施に当たり後掲するような流れと役割分担の表を作成し、関係者に確認を行い、段取り、準備等に漏れがなく、現場での実施がスムーズに行くように努めた。
- ◆なお、当日の役割分担をもとに、事前の準備・手配等進行表（いつまでに、誰が何を準備するか）を作成し、節々で当社から確認、お願いをしながら実施当日に向けた。
- ◆徳島では、とみだアフタースクール、新町小学校放課後子ども教室の二ヶ所でプログラムを実施した。教室内で森と木について伝えるために、上勝町内の森や林業作業などを紹介するDVD上映が一つのポイントであった。二教室のうち、1教室は放課後子ども教室にモニター（テレビ）が備えられていないため、市教育委員会所有のモニターを教室まで運んでいただくことで対応した。二教室ともDVDは使用できなかったため、8mmビデオムービーにダビングして上映することで準備を進めていたが、備品の整理、確認が不十分で当日になって上映用の8mmテープソフトを特定できなかった。そこで、急遽、市に事前チェック用として送っていたVHSソフトを使用することとし、徳島市近隣のレンタルショップでVHSデッキを確保した。しかし、デッキとソフトの相性なのかスムーズに上映できなかった。一日目は何とか上映できたが、二日目は上映不能で、急遽、当社とハーモニーライフクラブ旭田上代表の口頭と黒板使用によって上勝町の森と木の状況を伝えることになった。
- ◆後半は、「デザイナー 黒河社長のおはなし『木を生活に活かす』』という内容とした。小学生、それも低学年の子ども達にどのように「デザイン」のことを話すか、興味を持って聞いてくれるだろうかという危惧があった。黒河講師との事前の話し合いによって、イス、遊山箱など運搬可能なデザイン作品は極力現物を持ち込むようにし、キャンピングカーやシステムキッチンなどについては、作品集の写真パネルを用意して当日黒板に掲示した。

第一回「とくしま とみだ 放課後森と木の教室」【見て聞いて、さわる教室】

平成20年11月13日(木):とみだアフタースクール 登録児童数 33名
 平成20年11月14日(金):新町小学校放課後子ども教室 登録児童数 29名

時刻	活動内容	役割分担				調達・手配		
		とみだアフタースクール 新町小放課後子ども教室	事務局 徳島市教育委員会 コーディネーター		ハーモニーライフ クラブ旭	アワード (徳島県木竹 工業連合会)	内容	調達先
14:30	集合 子ども教室に児童達が集まり始める	<input type="checkbox"/> 説明、注意		<input type="checkbox"/> 14:15に入室、流れ等確認	<input type="checkbox"/> 14:00にアワード集合、14:15に教室へ	<input type="checkbox"/> 14:00にアワード集合、14:15に教室へ	◇8mmムービー ◇デジカメ	◇開発計画 ◇開発計画
第一回教室「森と木、木のしごとを学ぼう」								
14:45	①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などを説明	<input type="checkbox"/> 児童に混じりサポート、声かけ	<input type="checkbox"/> あいさつ(簡単に)	<input type="checkbox"/> あいさつ、説明			◇謝金等	◇開発計画
14:50	②「共に生きる人と森(上勝町)」ビデオ上映(6分間) [内容] 高丸山とは 森と木の大切さ、すばらしさをまもるために *低学年でも興味を持てるように説明を加えながら上映		<input type="checkbox"/> ビデオ、テレビ操作補助	<input type="checkbox"/> ビデオ内容について簡単に紹介 <input type="checkbox"/> ビデオ操作	<input type="checkbox"/> 子どもにわかりやすく、あきないよう補足説明をお願い		◇8mmソフト ◇8mmムービー ◇テレビ ◇デジカメ	◇開発計画 ◇開発計画 ◇市、教室 ◇開発計画
15:00	③「木を育てるために[高丸山 合同草刈り]」ビデオ上映(6分間) [内容] ボランティアによる幼木を守るための草刈り作業 草刈りなど木を育てるための作業の大切さ *低学年でも興味を持てるように説明を加えながら上映		<input type="checkbox"/> ビデオ、テレビ操作補助	<input type="checkbox"/> ビデオ内容について簡単に紹介 <input type="checkbox"/> ビデオ操作	<input type="checkbox"/> 子どもにわかりやすく、あきないよう補足説明をお願い			
15:10	④山の楽校 田上校長先生のおはなし「人と森のかかわり」 [内容]人は森なしでは生きられない 森のめぐみ(木や木の実だけでなく、人の体にも心にもいい成分を出してくれる) 森を活かし森とともに生きる			<input type="checkbox"/> 田上代表、山の楽校プロフィール紹介 <input type="checkbox"/> 資料提示、配布ほか補助	<input type="checkbox"/> 田上代表にお話しいただく *山の楽校PRも		◇山の楽校パンフ	◇田上代表
15:25	休憩							
15:30	⑤木のおもちゃや道具にふれてみよう *積み木 からくりおもちゃ 竹細工いきもの(カニ、昆虫等) 貯金箱 イス 遊山箱など	<input type="checkbox"/> 児童に混じりサポート、声かけ *遊山箱の扱い注意		<input type="checkbox"/> 子ども誘導、呼びかけ *遊山箱の扱い注意	<input type="checkbox"/> おもちゃ等について話しかけ、説明いただく	<input type="checkbox"/> 積み木、遊山箱、イス等について話しかけ、説明いただく	<input type="checkbox"/> 積み木 からくり貯金箱 竹細工:カニ ◇スギ製イス ◇遊山箱	◇田上代表 ◇田上代表 ◇黒河社長 ◇黒河社長
15:45	⑥デザイナー 黒河社長のおはなし「くらしに木をいかにす」 [内容] デザイナーの仕事とは 徳島のスギでイスをデザインして作る 徳島スギのイスを大切に長く使うには 徳島スギを工夫して使う(藍染め木材、Kamiwaza Core)			<input type="checkbox"/> 黒河社長、アワードプロフィール紹介 <input type="checkbox"/> 資料提示、配布ほか補助		<input type="checkbox"/> 黒河社長にお話しいただく *アワード、木竹連合会のPRも	◇デザイン実績パネル ◇阿波踊りパンフ ◇カミワザイス ◇遊山箱	◇黒河さん ◇黒河さん ◇黒河さん ◇黒河さん
16:15	⑦まとめ(感想)、第二回のおんない(何を作ってみたいかな?)、お礼	<input type="checkbox"/> 子どもの感想引出し、あいさつ、お礼	<input type="checkbox"/> あいさつ	<input type="checkbox"/> あいさつ			◇感想用紙 *アンケート、次回案内入り	◇開発計画
16:30	第一回教室「森と木、木のしごとを学ぼう」終了							

2) 第二回「とくしま放課後森と木の教室」

- ◆第二回「とくしま森と木の教室」については、「木でおもちゃや道具を作る」教室とした。約2時間の教室において、前半にカニの竹細工づくり、後半に地場産スギの貯金箱づくりを行った。最初から参加していた子どもは、みな一応、2作品ともほぼ完成させられたが、結果としては、どちらか一つのモノづくりに絞るべきであったと考える。
- ◆竹細工、貯金箱とも、上勝町の素人名人をお願いして、当日は組み立てるだけで済むように人数分のキットとして用意していただいた。第二回教室の約一ヶ月前に、ハーモニーライフクラブ旭田上代表と人数やキットサイズ、仕様、経費などを検討して発注を行い、当日に間に合うよう準備してもらった。

第二回「とくしま放課後森と木の教室」【作る教室】

日程:平成20年12月4日(木):とみだアフタースクール 参加予定数28名/登録33名
 日程:平成20年12月5日(金):新町小学校放課後子ども教室 参加予定数22名/登録29名

12/4 とみだ 時刻	12/5 新町小 時刻	活動内容	とみだアフター スクール 新町小放課後 子ども教室	役割分担			調達・手配		
				事務局 徳島市 教育委員会 コーディネーター	開発計画研究 所	ハーモニーライフ クラブ旭	アワード (徳島県木竹 工業連合会)	内容	調達先
13:20	14:00	教室スタッフと事務局、流れ及び「作り方」など事前確認	□流れ、作り方、支援方法等確認	□流れ、作り方、支援方法等確認	□12/4は13:10、12/5は13:50に入室、材料・用具等準備	□12/4は13:10、12/5は13:50に入室	□12/4、12/5とも13:50に入室	◇8mmムービー ◇デジカメ ◇謝金等	◇開発計画 ◇開発計画 ◇開発計画
13:50	14:30	子ども教室に児童達が集まり始める	□子ども達に声かけ	□子ども達に声かけ	□子ども達に声かけ				
第二回「木でおもちゃや道具を作ろう」									
14:15	14:45	①「本日の予定」、「気をつけよう」などを説明	□児童に混じりサポート、声かけ	□あいさつ(簡単に)	□あいさつ、説明				
14:20	14:50	②竹細工のこんちゅうをつくる [内容] キットを組み立てて、自分なりにしあげる		□子どもに声かけ、手助け	□子どもに声かけ、手助け	□田上代表より、作り方を説明いただく。子どもの作業の手助けもお願いする	□子どもに声かけ、手助けをお願いする	◇カニさん竹細工キット【52セット】 ◇ボンド等 ◇はさみ、カッター * 足切り用	◇田上代表
15:00	15:30	休憩							
15:05	15:35	③スギの貯金箱をつくる [内容] 貯金箱:キットを組み立てて、絵や木の葉などでかざる		□子どもに声かけ、手助け	□子どもに声かけ、手助け	□田上代表より、作り方を説明いただいた上で、子どもの作業を手助け	□子どもに声かけ、手助けをお願いする * 様子次第では、アワードデザインの貯金箱を披露いただく	◇貯金箱キット【52セット】 ◇くぎ、金づち ◇絵付け用 絵の具、油性マーカー、クレヨン ◇小枝、木の葉	◇田上代表
15:45	16:15	④まとめ(感想)、お礼	□子どもの感想を引き出し、あいさつ、お礼	□あいさつ	□あいさつ			◇アンケート * 児童用、大人用(保護者、協力者) * 文科省アンケートも	◇開発計画
16:00	16:30	第二回教室「木でおもちゃや道具を作ろう」終了							

(4) 実施結果

1) 参加状況

とくしま 放課後森と木の教室
参加状況

	子ども	大人	保護者		合計
			保護者	スタッフ	
第一回 とみだアフタースクール(081113)	27人	5人	3人	2人	32人
新町小放課後子ども教室 (081114)	13人	4人	1人	3人	17人
計	40人	9人	4人	5人	49人
第二回 とみだアフタースクール(081204)	28人	4人	2人	2人	32人
新町小放課後子ども教室 (081205)	22人	4人	1人	3人	26人
計	50人	8人	3人	5人	58人

2) 実施概要

①第一回「とくしま放課後森と木の教室」

＊詳しい実施状況は、58頁以降の実施レポートを参照

- ◆第一回「とくしま放課後森と木の教室」は、58頁以降に示すように、平成20年11月13日にとみだアフタースクールで、14日に新町小学校放課後子ども教室で実施した。
- ◆教室内で「森と木」を学ぶという難題ではあったが、田上講師の人柄や日々子ども達に接している経験、そして何より実際に日々森と木に接しながら生活しているという体験談のおかげで、難しいなりに、子ども達の森や木の見方が変わるきっかけづくりになった。田上講師手づくりの大きな積木も持参いただき、木にふれることもできた。
- ◆黒河講師のデザインのおはなしについては、ファッションや車のデザインなど、子ども達も比較的興味を持ち、あこがれもあったようで、熱心に話を聞いてくれた。また、現物にさわったり、写真を見たりなどによって、子ども達のその場の集中状況や事後の感想は予想以上によかった。あこがれの「デザイナー」でありながら、黒河講師の気取らない人柄もあって、「デザイナーの黒ちゃん先生」と慕われるなど、人気であった。
- ◆放課後子ども教室内で、「森、木、自然・環境」などについて伝えるという点で、プログラムの組立に工夫を要した。DVDで上勝の森や林業作業などを紹介し、ハーモニーライフクラブ旭代表の話で補足するという内容にしたが、放課後子ども教室で授業的な話を聞く、さらにはDVDも子ども向けでなかったこともあって、小1、小2中心の教室では多少退屈そうな様子も見られた。上映ソフトは、第一回教室の鍵をにぎるものであっただけに、ソフト内容自体の選定、吟味に配慮が必要であった。
- ◆二日目の新町小学校放課後子ども教室ではビデオ機器が不調で急遽、当社と田上講師

による口頭説明に切り替えた。子ども向けでないDVDよりはわかりやすかったとの感想もあったが、事前及び当日の機材、備品チェックなどは十分すぎるくらいに行う必要があったと痛感した。

②第二回「とくしま放課後森と木の教室」

*詳しい実施状況は、72頁以降の実施レポートを参照

- ◆第二回「とくしま放課後森と木の教室」は、72頁以降に示すように、平成20年12月4日にとみだアフタースクールで、5日に新町小学校放課後子ども教室で実施した。
- ◆第二回は、木のおもちゃや道具を「作る」教室とした。第一回の話しを聞くことが中心の教室に比べて、当然ながら子ども達は事前から興味を持ってくれ、当日も熱心に取り組み、概ね好評であった。
- ◆しかし、準備の部分で前述したように、2作品は欲張りであったし、大人の手伝いなしには多くの子ども達が完成に到らなかったと思われ、今後このような木のモノづくりを取り上げる上での、様々な反省点、課題が明らかになった。
- ◆キットとはいえ、竹製のカニ甲羅の細かな穴に竹枝の足を差し込む細かな作業や、貯金箱では7～8mm程のスギ板を釘打で組み立てるなどの作業があり、小1、小2の子ども達が独力で作成することは不可能であった。一日目は、保護者、教室スタッフ、市スタッフ、事務局など、大人総出で補助し完成にこぎつけた。二日目は、カニ足の組立、貯金箱板の一部打ちつけなどを事前に行った上で子ども達に作業させた。その結果、一日目よりはスムーズであったが、やはりかなりの大人の手助けが必要であった。

3) 実施レポート

①-1: 第一回「とくしま とみだ 放課後森と木の教室」



第1回
とくしまとみだ
放課後森と木の教室
見て、聞いて、さわる教室
とみだアフタースクール
徳島県徳島市

事業のねらい

放課後子ども教室の子どもたちに、徳島県の豊かな森林資源がどのように活用され、人の暮らしを支えたのか。そして、人間にとって森や木がどれほど大切なものかということを知りたい。専門家の話や木の実物に触れながら体験しながら学びます。

実施日

平成20年11月13日(木) 14時30分～16時30分

参加者

とみだアフタースクール
児童26名(小一12名、小二13名、小三1名)
教室スタッフ、保護者

スケジュール

活動内容

14:30
スタート

①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などの説明

子どもたちに今日の教室の内容を説明し、お話をさせていただく先生方(2名)とそのお手伝いをする担当者を紹介しました。



14:50
ビデオ上映
1

15:00
ビデオ上映
1

15:10
田上先生
のお話



プロフィール

田上幸輝(たうえゆきてる)
平成 17 年に上勝町の廃
校を活用した体験交流
施設「山の楽校」校長



15:25
休憩

②「共に生きる人と森(上勝町)」ビデオ上映

高丸山と森や木の大切さやすばらしさ、そしてその森を守るためにがんばる人々のビデオを見ました。

③「木を育てるために【高丸山合同草刈り】」ビデオ上映

ボランティアによる幼木を守るための草刈り作業、草刈りなど木を育てるための作業の大切さのビデオを見ました。



④山の楽校 田上校長先生のお話 「人と森のかかわり」

田上先生のお話をみんなで聞きました。

「人と森のかかわり」



山の楽校 校長 田上幸輝氏

人は森なしでは生きられません。森には、木や動物、鳥、虫、植物などたくさんの生きものがいて、さまざまな役割をしています。木は、山に降る雨を空に伸びている枝や葉っぱで受け止め、それが幹をつたって地面にしみこみます。その地面にしみこんだ雨が川になり、人がその水を飲んだり、生活に使ったりしているのです。

また、森には木に悪い虫もいます。しかし、木は地面に根をはっているために虫から逃げられません。そこで木は「フィトンチット」という殺虫剤のような香りの成分を出します。森をながめるとき、青いモヤが見えることがありますが、それが、「フィトンチット」です。虫よけですが、人にとってはこの香りの成分は、とても体によいもので、リラックスできます。

地中にはミミズがいますが、木や土にとって大切な生き物です。ミミズは1年中土の中において、動物の死骸などのゴミや落ち葉をせっせと食べてお掃除をします。そして、ミミズは小さな体で1年間に3トンものフンを出します。このミミズのフンによって養分がたくさん含まれる土になります。この栄養豊富な土で木や植物が大きく育ちます。

このように、森は水や空気をつくり出す工場のようなはたらきをしているのです。

わたしたちは、森のめぐみに感謝の気持ちを持ち、そしてこれからも大切に守っていかなくてははいけません。



15:30
木のおもちゃ
にふれる

⑤木のおもちゃや道具にふれてみよう

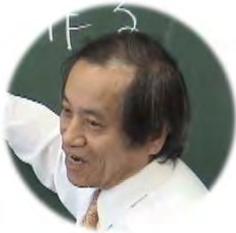
田上先生手づくりのつみ木、からくりおもちゃ、竹細工などで遊びました。



15:45
黒河社長
のお話

⑥デザイナー黒河社長のお話「くらしの木をいかす」

黒河先生の木のデザインのお話やデザインした作品にふれてみました。



プロフィール

黒河昭一（くろかわしょういち）
株式会社アワード代表取締役社長
徳島特産素材と技術を活用した商品開発、デザインを手掛けている。



黒河先生デザインの遊山箱

「くらしの木をいかす」



株式会社アワード社長 黒河昭一氏

人は動物と違い、「考えること」、「つくる」ことができます。
デザインという仕事は、この2つがいっしょになったとても楽しい仕事です。
わたしは木を使っていろいろなもの考えつくるデザイナーです。
20年前に徳島市で徳島の産業を活性化するデザイン会社をつくることになり、社長として、全国からデザイナーを募集しました。130人の応募者の中から選ばれて、東京から徳島にきました。今はその会社でデザイナーとして多くの作品をつくっています。徳島の杉などを使って椅子などの様々な家具をつくっています。また、昔、徳島ではお花見やひな祭りに使っていた遊山箱という手提げのお弁当箱も桐の木で現代風にアレンジしてつくっています。いろいろな木がありますが、どの木もよいところと、むずかしいところがあって、それをどんな風に使って、何をつくろうかと考えるのが楽しいです。また、木には金属などの素材にはないやさしいぬくもりがあります。ですから、わたしはこれからも木をつかっていきたいと思っています。そのためにも、森や木を大切に守ってほしいと思います。
また、徳島に伝わる藍染めで木材を染めたり、Kamiwaza Coreという紙製の芯材を活用した軽くて丈夫な素材の開発にも挑戦しています。
いろいろなものを考え、つくるデザインの仕事は、本当にやりがいのある仕事です。わたしはデザイナーになってよかったと思っています。みなさんも、将来なりたい職業があると思いますが、そのためには、一生懸命、勉強をして色んな体験をしてください。そうすれば、必ず、その職業につくことができます。

16:15
まとめ

16:30
終了



⑦まとめ(感想)、第2回の案内、お礼

最後に子どもたちには、今日の感想を含めてアンケートを書いてもらいました。第2回「とくしま放課後放課後森と木の教室」は、12月4日(木)14:30~16:30で開催し、木の貯金箱やおもちやをつくることをお知らせして、参加を呼びかけました。



感想 & 意見



①上勝町のビデオを見て

- 自然のことがよくわかりました。楽しかったです。
- むずかしくてぜんぜんわからなかった。まんがだとよかった。
- つまらなかった。
- たいくつだった。



②木をまもる草かり作業のビデオを見て

- 木をととても大切にしていると思いました
- むずかしかった。
- おもしろかった。
- わたしもやったことがあるけど、いつも10人以下しか来ていないのに、たくさんの方が参加していてびっくりした。
- とてもたいへんそう。
- 木をもっとたいせつにしたいです。



③田上先生のお話について

- べんきょうになりました。
- みみずがとてもふしぎでした。はやく何かをつくりたいです。
- おもしろかった。
- たいくつだった。
- 森と人とはともだちだったんだなあ
- 木にかんじたことがちょっとむずかしかったけどよくわかりました。高丸山にも何回ものぼっています。



- とてもよくわかった。
- たのしかった。

④木のおもちゃとあそんで

- とてもたのしかった。(多数)
- おもしろかった。(多数)
- とてもおもしろくて記おおくにのこりそうです。
- 家でもあそびたいとおもった。

⑤黒河先生のお話について

- すごかったです。
- おもしろかった。
- よかった。
- すごかった。
- デザインのことをいっぱいべんきょうしたいと思います。

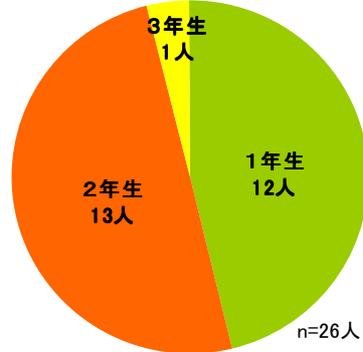
アンケート結果

子どもたちがどれくらい徳島市の森や木のこと、木に関わる工場のこと、上勝町のことなどを知っているかアンケートに答えてもらいました。少し、難しかったようですが、がんばって回答してくれました。結果は下記の通りです。

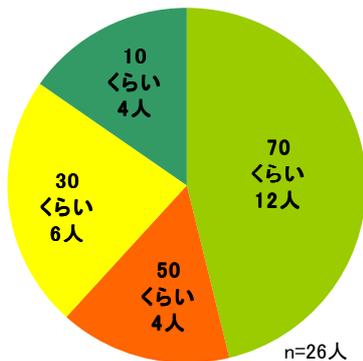
性別



学年



徳島市の森林の広さ

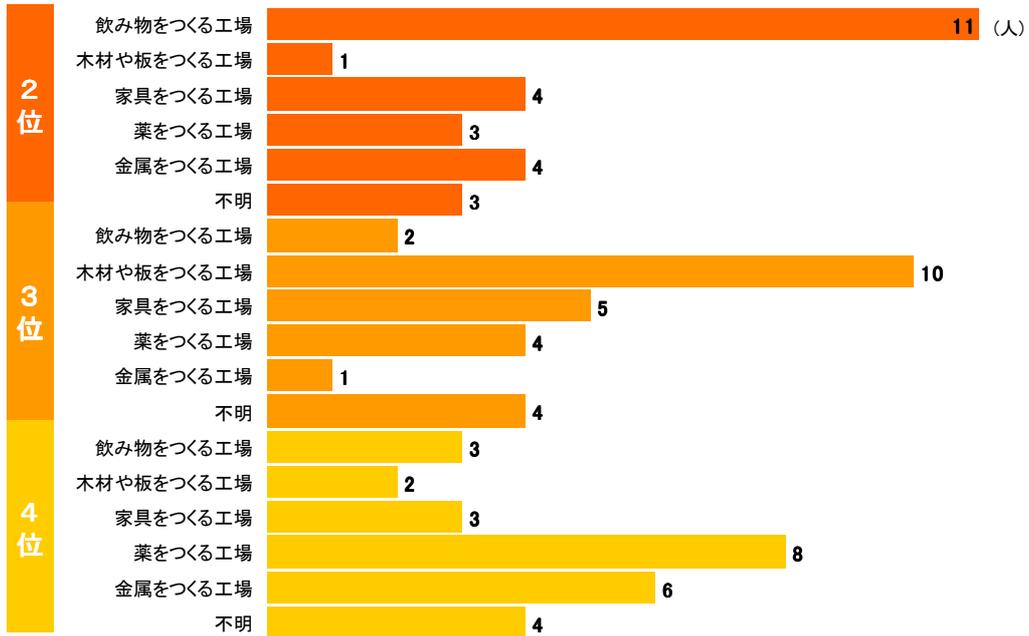


徳島市の森林の広さについては、半数の子どもたちが 70 くらいと答え、一番多かったです。

正しいのは、3番の 30 くらいです。実際の森林の広さは徳島市の面積の 27%です。3番と答えた子どもは 6 人いました。

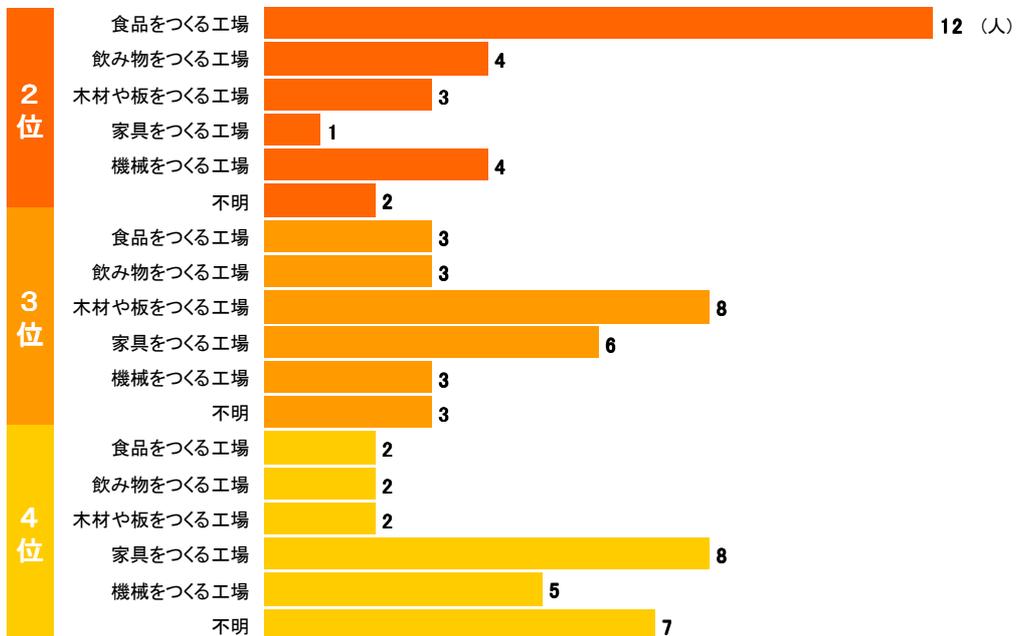


徳島市に多くある工場



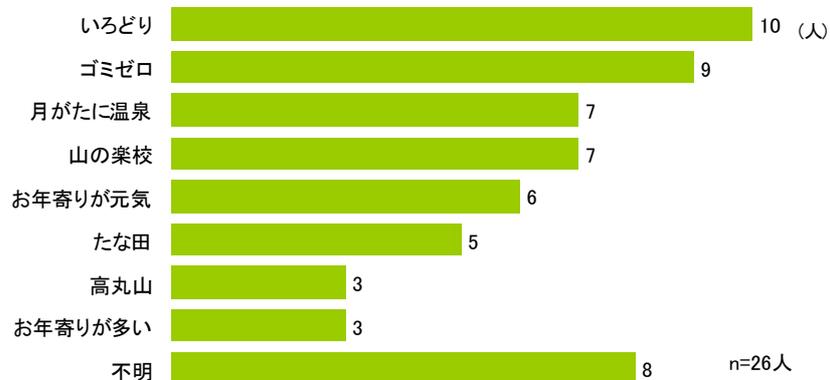
2位は飲み物をつくる工場、3位は木材や板をつくる工場、4位は薬をつくる工場という回答が多かったです。
正解は、2位は家具をつくる工場、3位は木材や板をつくる工場、4位は金属をつくる工場でした。

徳島市でお金をかせぐ工場



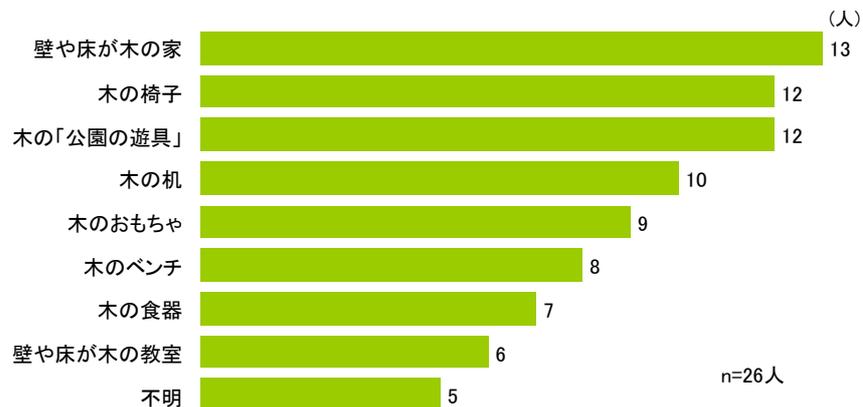
2位は食品をつくる工場、3位は木材や板をつくる工場、4位は家具をつくる工場という回答が多かったです。
正解は、2位が食品をつくる工場、3位が飲み物をつくる工場、4位が機械をつくる工場でした。

上勝町で知っていること



上勝町のことで「いろいろ」や「ゴミゼロ」について以前から知っているという答えが多かったです。今回のテーマにもなった「高丸山」は3人と少なかったです。

木のできたらいいもの



その他一木のできたらいいもの

車、バイク、自転車、電車、すいとう、めがね、木の本、木のテレビ

ふりかえって

- ・低学年の子どもたちには、ビデオの内容が難しく、動画も興味をひくものでなかったため、途中で飽きてしまい、落ち着きなく、騒がしくなっていました。
- ・ビデオの後も、最後までざわざわとしており、子どもたちを集中させることが大変でした。床の上で好きなところに座って、ビデオやお話を聞いたため、ゴロゴロと寝転がったりと姿勢が悪くなり、これも原因かと思います。
- ・年齢を考慮したビデオの内容や見せ方の工夫（紙芝居など）が必要だと感じました。
- ・事前の準備や流れについて、スタッフの入念な打合せを行い、突然のハプニングも想定して、その適切な対処方法を考えておくことも必要だと思いました。